西山遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集

２００５

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

西山（にしやま）遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集

平成17年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、中山間総合整備事業ふじの里東部地区に先立って財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、西山遺跡の調査成果をまとめたものです。

西山遺跡は、広大な庄内平野の東部、山形県東田川郡藤島町に位置しています。藤島町は、平野部と月山から北西に広がるなだらかな丘陵部をかかえ、米作りのほか、柿などの果樹栽培が盛んに行われています。遺跡の所在する添川地区は、平野部と丘陵部が接する場所にあり、古くから人々に快適な生活環境を提供してきました。付近では西山遺跡をはじめ、縄文時代以降多くの遺跡が残されています。

今回の発掘調査では、縄文時代と平安時代の遺構や遺物がみつかっていますが、須恵器や赤焼土器といった器類のほか、掘立柱建物跡や柱列などが検出され、特に平安時代の集落の様子が明らかとなりました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成17年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　日　野　雅　夫

本書は、中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区に係る「西山遺跡」の発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
調査は山形県農林水産部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
出土遺物、調査記録類は、報告書作成終了後、山形県教育委員会に移管する。

調 査 要 項

遺　跡　名	西山遺跡（にしやま）
遺 跡 番 号	1736
所　在　地	山形県東田川郡藤島町大字添川字西山54-4他（ひがしたがわぐんふじしままち、そえかわ）
調査委託者	山形県庄内総合支庁産業経済部酒田農村整備課
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
	理　事　長　　日野　雅夫
受 託 期 間	平成15年４月１日～平成17年３月31日
現 地 調 査	平成15年８月21日～９月26日
調査担当者	調査第一課長　　野尻　侃
	主任調査研究員　　黒坂雅人（調査主任）
	主任調査研究員　　須賀井新人
	調　　査　　員　　小林　啓
調 査 指 導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室
調 査 協 力	山形県教育庁庄内教育事務所
	藤島町教育委員会

凡　　例

1　本書の作成・執筆は、黒坂雅人、小林　啓が担当した。

2　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ⅹ系（測地成果2000）により、高さは海抜高で表す。また、方位は座標北を表す。

3　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ＳＢ…掘立柱建物跡・掘立柱列	ＳＫ…土坑	ＳＤ…溝跡
ＳＰ…ピット	ＥＢ…掘立柱建物柱穴	ＲＰ…登録土器・土製品

4　本文中の遺物番号は、実測図・観察表と共通するが、写真図版は別番号とした。対応は観察表に示した。

5　遺構・遺物実測図の縮尺、網点等の用法は各図に示した。

6　基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」に拠った。

7　発掘調査および本書を作成するにあたり、松井敏也、青山　崇の両氏からご協力、ご助言をいただいた。

8　委託業務は下記のとおりである。

遺構写真実測業務　　株式会社アジア航測

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過・・・・・・・・・・1
Ⅱ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・2
　　1　地理的環境・・・・・・・2
　　2　歴史的環境・・・・・・・2
Ⅲ　調査の経過・・・・・・・・・・・・・6
Ⅳ　遺跡の概観・・・・・・・・・・・・・7
Ⅴ　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・18
　　1　検出された遺構・・・18
　　2　出土した遺物・・・・22
Ⅵ　調査のまとめ・・・・・・・・・・26
報告書抄録・・・・・・・・・・・・・・巻末

表

表１　掲載遺構土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
表２　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

図　版

第１図　地形分類図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第２図　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第３図　分布調査概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第４図　試掘溝平面図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第５図　試掘溝平面図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第６図　調査区概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第７図　試掘坑土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第８図　遺構配置図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第９図　遺構配置図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第10図　遺構配置図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第11図　遺構配置図（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第12図　遺構配置図（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第13図　検出遺構（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第14図　検出遺構（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第15図　出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第16図　出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

写真図版

写真図版１　1区調査開始前の状況他
写真図版２　遺跡近景
写真図版３　調査区全景
写真図版４　ＳＢ98調査状況他
写真図版５　ＳＢ98完掘状況他
写真図版６　ＳＢ99ＥＢ４土層断面他
写真図版７　ＳＢ99完掘状況
写真図版８　１区ＴＰ２土層断面他
写真図版９　ＴＴ４遺構検出状況他
写真図版10　ＴＴ６他
写真図版11　布掘作業他
写真図版12　1区南半全景他
写真図版13　2区27・28－38～41区完掘状況
写真図版14　2区26・27－35～37区完掘状況
写真図版15　2区26－32～34区完掘状況
写真図版16　2区17～20－22～24区完掘状況
写真図版17　2区北端拡張区完掘状況
写真図版18　縄文土器・剥片
写真図版19　石核・石器
写真図版20　赤焼土器（１）
写真図版21　赤焼土器（２）
写真図版22　須恵器

Ⅰ　調査に至る経過

西山遺跡の緊急発掘調査は、山形県農林水産部が計画した「中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区」に係る「柿里３号線」農道改築工事に先立って実施されたものである。

中山間地域総合整備事業は、文字通り中山間地域の農業振興をはかることを目的として、農道整備などを主体に山形県農林水産部が企図した公共事業である。このうち、ふじの里東部地区は、藤島町添川地区の南西部丘陵地帯の果樹園や畑地が主な対象域となる。山形県教育委員会では、その着工に先立ち、事業の実施が予定される区域について、既知の遺跡の具体的な内容把握と未発見遺跡の有無を確認するための表面踏査や、事業の進捗に伴った試掘調査など、数次にわたる現地調査を実施し、山形県農林水産部と調整がなされてきた。

初回の現地調査は、平成11年11月9日に実施した農道柿里４号線、農業集落道藤九郎清水線の計画路線および周辺の表面踏査である。柿里４号線関連では、既知の遺跡である鷺畑Ｂ遺跡、新規登録となる西山３遺跡と２箇所の遺跡可能性地が計画路線にかかることが確認されたほか、路線に隣接して西山２遺跡、鷺畑山古墳１号、鷺畑山古墳２号の３遺跡が新規発見された。鷺畑山古墳１号・２号はそれぞれ新田古墳、西山古墳として平成11年度に登録されたが、藤島町教育委員会からの要請で平成13年度に遺跡名が変更された（山形県教委2003）。藤九郎清水線では、路線内に藤九郎清水Ａ遺跡がかかり、藤九郎清水Ｄ遺跡が路線に隣接することが確認されている。

翌平成12年９月20日・21日、山形県教育委員会は、柿里１～６号線、藤九郎清水線、堀越東線について再度の表面踏査を実施した。調査では、計画路線上に４箇所の遺跡可能性地を抽出したほか、路線外に大西山古墳を新規発見した。西山遺跡はこの調査の際に現地確認がなされ、縄文土器片や石器剥片類、須恵器片、赤焼土器片などを採集している。

西山遺跡の試掘調査は、柿里３号線着工の具体化にともない、平成15年５月13日～16日の日程で実施された。調査は事業地区内に幅約1.5mのトレンチを14箇所設定し、重機により地山面まで掘り下げをおこない、遺構の有無を確認した。これらのうち10箇所のトレンチで遺構、遺物の存在が確認され、路線が遺跡内を通過することが確実となった（第3図～第5図　写真図版９・10）。なお、この期間内に遺跡可能性地３～６の試掘調査もあわせて実施され、遺跡可能性地４が新地遺跡として新たに登録された。

この結果を踏まえ、山形県教育委員会では、山形県農林水産部と遺跡の保存について協議を重ね、施工により破壊を免れない部分は、記録による保存を目的とした緊急発掘調査をおこなうことになった。

以上のような経過をもって、財団法人山形県埋蔵文化財センターでは、山形県農林水産部からの委託を受けて、平成15年８月21日から９月26日の期間で、遺跡が路線にかかる部分約1,560㎡を対象として緊急発掘調査を実施するに至った。なお、現地調査終了後の遺構記録と遺物の整理作業および報告書作成作業は平成15年度、報告書の印刷製本は平成16年度におこなわれている。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

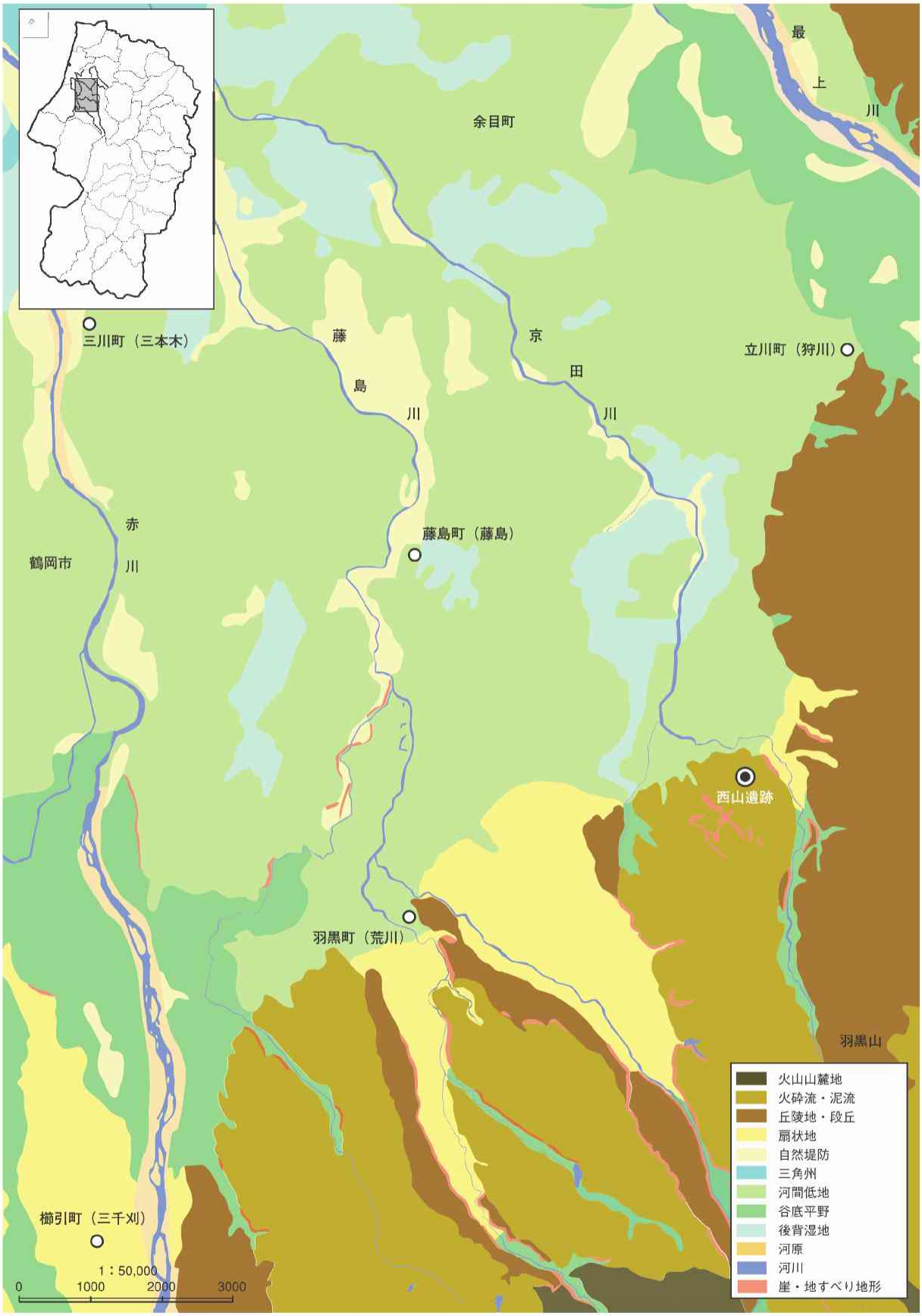
山形県の北西部に位置する庄内地方は、県全体の面積の約25.7%にあたる2,403㎢を占める。西は日本海の海岸線が続き、北は出羽富士と呼ばれる鳥海山の裾野で秋田県と区切られ、東から南にかけては、鳥海山から月山、さらに朝日山系へと続く出羽山地によって内陸地方および新潟県と隔てられる。その間に広がる庄内平野は、面積約530ｋ㎡、山形県を縦断して日本海に注ぐ最上川と、出羽山地に源を発する大小の河川が運ぶ土砂により形成された日本有数の均平率をもつ広大な沖積地である。庄内平野は、内陸部に比べて気温の年較差および日較差が小さく、冬季の降雪量も少ないため、年間を通じてすごしやすい気候条件をもつ。しかし、冬季の北西の季節風は非常に強く、往々にして地吹雪を伴う。農業は稲作・柿・砂丘地でのメロン栽培など多岐にわたるが、特に水稲は391㎢に作付けされ、一大穀倉地帯となっている。

西山遺跡は庄内平野と出羽山地が接する、東田川郡藤島町添川地区に位置し、月山山系から北に張り出し京田川と藤島川にはさまれた泥流台地の末端部付近に立地している。標高は約40ｍを測る。地目は柿を主体とした果樹園、畑地のほか、雑木林も多く残る。台地は概ね険しくはないが、小さい沢が複雑に入り組み、起伏に富んだ地形を呈する(第１図)。

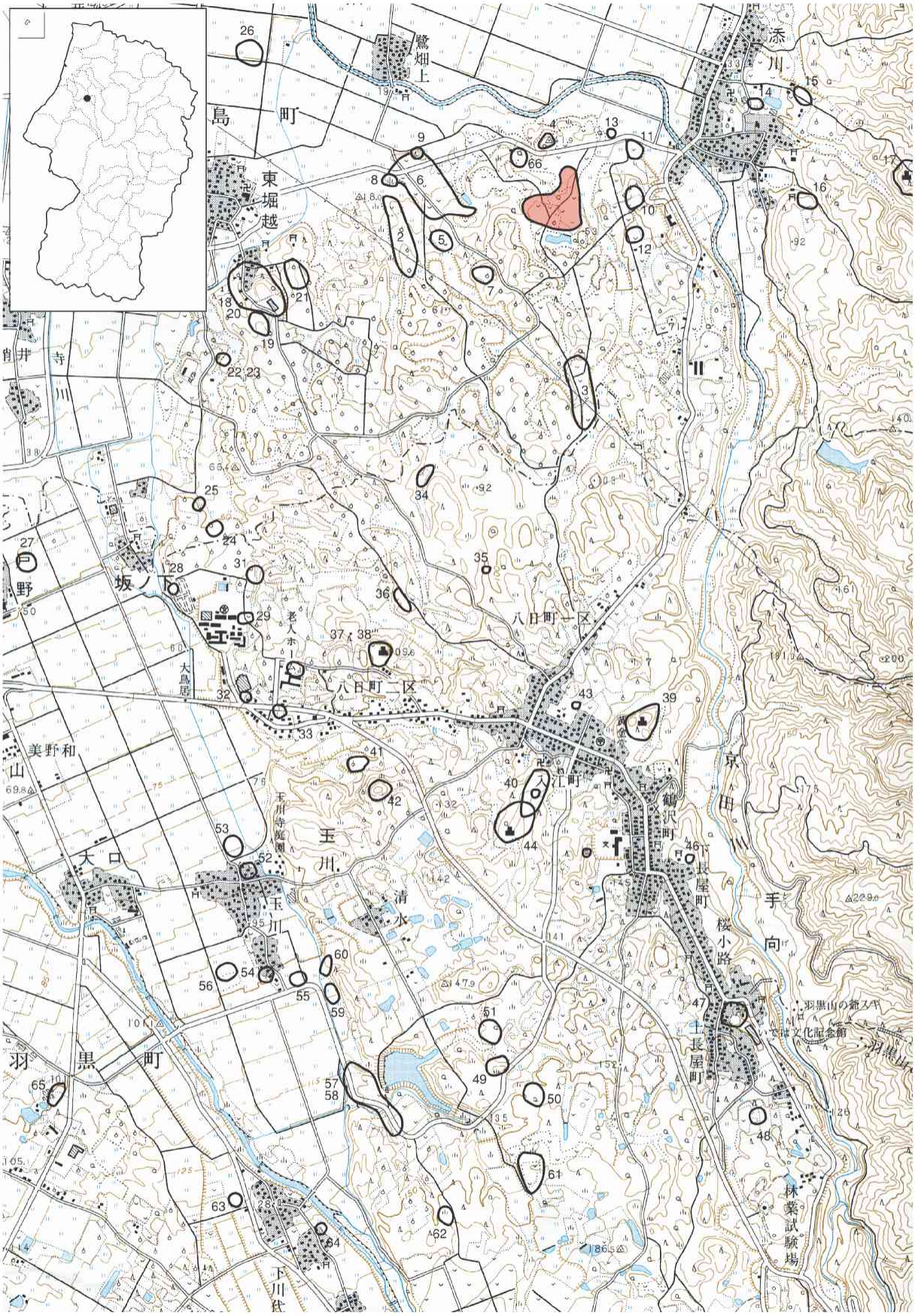
2　歴史的環境

西山遺跡が立地する泥流台地は、藤島町と羽黒町にまたがって張り出している。ここには第２図に示したように、現在60箇所以上の遺跡が確認されている。現在登録されている遺跡は藤島町65箇所、羽黒町132箇所であり、その３割以上がこの区域に集中する。その分布状況は、西側を流れる藤島川上流の扇状地に接する縁辺付近および北辺部分に密に分布し、東辺の京田川に面するところや中央付近は疎な傾向が見て取れる。これらは旧石器時代の遺物包含地から中世の城館跡まで、広範囲な内容をもつが、半数以上が縄文時代の遺跡である。山岳や丘陵と平地が接するこの地は、古くから人々にとって快適な生活環境にあったことを想起させる。

羽黒町玉川の遺跡群(第２図52～61)は、旧石器時代から縄文時代の遺跡として本県の学史的にも有名である(羽黒町教委1973)。また、郷の浜Ｊ遺跡(33)は、県道鶴岡羽黒線の道路改築工事にともなって山形県教育委員会により昭和55年に緊急発掘調査が実施され、北陸地方的な要素をもった縄文時代前期末葉から中期初頭の土器群の存在が確認された(山形県教委1981)。西山遺跡の西北西約1.5㎞の水田中に所在する石欠遺跡(26)は、団体営圃場整備事業に先立ち、昭和55年に藤島町教育委員会によって発掘調査された。調査は部分的なものに限られたが、平安時代の須恵器、赤焼土器や祭祀に関わる盛土遺構のほか、古式土師器の存在が報告された(藤島町教委1981)。また台地北辺部には、鶯畑山古墳１号・２号(８・９)、添川古墳(13)、大西山古墳(66)、の４基の古墳が登録されている。庄内地方では非常に発見例の少ない古墳の集中と石欠遺跡との関連が注目される。


最
上
川
余目町
三川町（三本木）
藤
島
川
京
田
川
立川町（狩川）
赤
川
鶴岡市
藤島町（藤島）
西山遺跡
羽黒町（荒川）
羽黒山
櫛引町（三千刈）
1：50,000
0
1000
2000
3000
火山山麓地
火砕流・泥流
丘陵地・段丘
扇状地
自然堤防
三角州
河間低地
谷底平野
後背湿地
河原
河川
崖・地すべり地形

第１図　地形分類図



第２図　遺跡位置図（国土地理院発行２万５千分の１地形図「羽黒山」を使用）

番号	登録番号	種　別	名　　称	時　代	所　在　地	現　状	立地	備　　考
1	1736	遺物包含地	西山遺跡	平	藤島町添川西山54-4	畑地	丘陵	
2	H11登録	散布地	西山２遺跡	縄・平	藤島町添川西山	畑地・果樹園	丘陵	県埋文報201
3	H11登録	集落跡	西山３遺跡	縄	藤島町添川西山	畑地・果樹園	丘陵	県埋文報201
4	1737	墳墓	西山墳墓	平	藤島町添川西山4-15	山林	山上	高さ1.5m径５ｍの円墳状
5	1725	遺物包含地	鶯畑Ａ遺跡	縄	藤島町鶯畑西山４-148他	畑地	台地	
6	1726	遺物包含地	鶯畑Ｂ遺跡	縄・平	藤島町鶯畑西山4-125他	畑地	丘陵	県埋文報201
7	1727	遺物包含地	鶯畑Ｃ遺跡	縄	藤島町鶯畑西山4-3	畑地	台地	
8	H11登録	古墳	鶯畑山古墳1号	古	藤島町鶯畑新田	荒地・果樹園	丘陵	前方後円墳・県埋文報201・202
9	H11登録	古墳	鶯畑山古墳2号	古	藤島町添川西山	荒地・果樹園	丘陵	円墳・県埋文報201・202
10	1731	遺物包含地	新地Ａ遺跡	縄	藤島町添川新地9-9	畑地	台地	
11	H15登録	遺物包含地	新地遺跡	縄	藤島町添川新地	畑地･果樹園･荒地	丘陵	
12	1738	寺跡	中山廃寺跡	平	藤島町添川中山91	畑地	台地	藤島町教委1982
13	1732	古墳	添川古墳	古	藤島町添川新地9-11	荒地	丘陵先端	
14	1728	遺物包含地	添川Ａ遺跡	先	藤島町添川池苗代３他	畑地・水田	平地	
15	1729	遺物包含地	添川Ｂ遺跡	縄	藤島町添川米山216	畑地	丘陵先端	
16	1730	遺物包含地	添川Ｃ遺跡	縄	藤島町添川米山218-1	畑地	丘陵	
17	1733	館	添川館	中	藤島町添川	山林	山腹	県中世城館址番号423-002
18	1739	遺物包含地	藤九郎清水Ａ遺跡	平	藤島町東堀越五輪沢田40-1	畑地	台地	藤島町教委1992・県埋文報27・201
19	1740	遺物包含地	藤九郎清水Ｂ遺跡	平	藤島町東堀越五輪沢田257	畑地	台地	
20	1741	遺物包含地	藤九郎清水Ｃ遺跡	縄	藤島町東堀越五輪沢田40-1	畑地	台地	
21	1742	遺物包含地	藤九郎清水Ｄ遺跡	縄	藤島町東堀越五輪沢田272他	畑地	丘陵	県埋文報27・201
22	1743	遺物包含地	郷の浜Ａ遺跡	縄	藤島町東堀越郷の浜7-15	畑地・水田	台地	
23	1744	遺物包含地	郷の浜Ｂ遺跡	平	藤島町東堀越郷の浜7-15	畑地・水田	台地	
24	1745	遺物包含地	郷の浜Ｅ遺跡	弥	藤島町東堀越郷の浜82	畑地	台地	
25	1746	遺物包含地	野村清水遺跡	縄	藤島町東堀越郷の浜8-1	水田・畑地	平地	
26	1747	遺物包含地	石欠遺跡	平	藤島町東堀越石欠24	水田	平地	藤島町教委1981
27	1768	遺物包含地	八幡田遺跡	縄(中)	羽黒町戸野八幡田15他	水田	平地	県埋文報１
28	1770	遺物包含地	郷の浜Ｃ遺跡	縄	羽黒町坂の下300	学校敷地	台地	
29	1771	遺物包含地	郷の浜Ｆ遺跡	平	羽黒町手向薬師沢198-24	畑地	台地	
30	1772	遺物包含地	郷の浜Ｇ遺跡	平	羽黒町手向薬師沢198-371他	畑地	台地	
31	1773	遺物包含地	郷の浜Ｈ遺跡	縄	羽黒町手向薬師沢198-231	畑地・水田	台地	
32	1774	遺物包含地	郷の浜Ｉ遺跡	平	羽黒町手向薬師沢56-223	畑地	台地	
33	1775	遺物包含地	郷の浜Ｊ遺跡	縄	羽黒町手向薬師沢56-202	畑地	台地	県埋文報50
34	1777	遺物包含地	地児森遺跡	縄	羽黒町手向手向88	水田	台地	
35	1778	墳墓	五輪森墳墓	平	羽黒町手向五輪森56	山林	山上	
36	1779	遺物包含地	桔梗清水遺跡	縄	羽黒町手向桔梗清水69	畑地	台地	
37	1780	遺物包含地	蝦夷館遺跡	縄	羽黒町手向薬師沢53-1	遊園地	台地	
38	1781	楯	蝦夷館	中	羽黒町手向	遊園地	台地	県中世城館址番号424-004
39	1782	館	黒沢館	中	羽黒町手向	山林	高台	県中世城館址番号424-009
40	1783	墳墓	羽黒百穴遺跡	平	羽黒町手向池の頭	墓地・山林	丘陵斜面	
41	1784	遺物包含地	百々目木遺跡	平	羽黒町手向百々目木73他	畑地	台地	県埋文報61
42	1785	遺物包含地	高林遺跡	縄(後晩)・平・中	羽黒町手向百々目木202	畑地・原野	台地	県埋文報61・74
43	1786	墳墓	伽藍林遺跡	平	羽黒町手向伽藍林175	畑地	丘陵先端	
44	1787	館	中 旬 館	中	羽黒町手向	山林	丘陵頂部	県中世城館址番号424-005
45	1788	墳墓	行尊墳墓	平	羽黒町手向卒塔婆谷地157-2	山林･畑地･荒地	丘陵	県埋文報84
46	1789	祭祀跡	黒沢十三塚	室	羽黒町手向黒沢22-1	原野	高台	
47	1790	寺跡	下旬長史職屋敷跡	鎌	羽黒町手向字手向７	宅地	山麓	
48	1804	遺物包含地	院主南遺跡	縄	羽黒町手向院主南83-5	畑地	台地	
49	1805	遺物包含地	小出沢Ａ遺跡	縄(晩)	羽黒町手向小出沢34-14	山林	台地	県埋文報74・84・148・163・194
50	1806	遺物包含地	小出沢Ｂ遺跡	縄(晩)	羽黒町手向小出沢7-120	山林	台地	県埋文報74・84・148・163・194
51	Ｈ４登録	散布地	小出沢Ｃ	縄	羽黒町手向小出沢	畑地	台地	県埋文報194
52	1807	遺物包含地	玉川Ａ遺跡	縄	羽黒町玉川字玉川123	宅地	平地	羽黒町教委1973
53	1808	集落跡	玉川Ａ´遺跡	縄	羽黒町玉川十二下１	水田	平地	羽黒町教委1973
54	1809	遺物包含地	玉川Ｂ遺跡	縄	羽黒町玉川玉川17	宅地･水田･畑地	平地	羽黒町教委1973・県埋文報74・84
55	1810	集落跡	玉川Ｂ´遺跡	縄	羽黒町玉川玉川９	水田	平地	羽黒町教委1973・県埋文報74
56	1811	集落跡	玉川Ｃ遺跡	縄	羽黒町玉川白山前42	水田・原野	平地	羽黒町教委1973・県埋文報74
57	1812	遺物包含地	玉川Ｄ遺跡	縄(中初)	羽黒町玉川袋樋235	畑地	台地	羽黒町教委1973・県埋文報74・163
58	1813	遺物包含地	玉川Ｄ´遺跡	旧	羽黒町玉川袋樋235	畑地	丘陵	羽黒町教委1973・県埋文報74
59	1814	遺物包含地	玉川Ｅ遺跡	縄	羽黒町玉川山の下23	水田	山麓	羽黒町教委1973・県埋文報74
60	1815	遺物包含地	玉川Ｆ遺跡	縄	羽黒町玉川袋樋	水田・社寺	山麓	羽黒町教委1973・県埋文報74
61	S58登録	集落跡	玉川Ｇ	縄	羽黒町玉川	畑地・荒地	丘陵	県埋文報84
62	1816	遺物包含地	上山遺跡	縄	羽黒町玉川東増川山174	水田	山腹	
63	1822	遺物包含地	下川代Ａ遺跡	縄	羽黒町川代西増川山102-27	水田	山麓	
64	1823	遺物包含地	下川代Ｂ遺跡	縄	羽黒町下川代中野130	宅地	山麓	
65	1833	遺物包含地	川代山Ｆ遺跡	縄	羽黒町川代川代山385	畑地	台地上	
66	H12登録	古墳	大西山古墳	古	藤島町大字西山字大西山	雑木地	台地	文化財第900号

Ⅲ　調査の経過

現地調査は、平成15年８月21日から同年９月26日の実働24日間にわたり、柿の防除の日程に合わせて調査区を二分し、南半部分（１区）を先に調査し、その後、北半部分（２区）の調査という手順でおこなった。以下にその概要を述べる（第６図　写真図版11）。

８月21日

器材の搬入、事務所内整理、調査区全体の草刈作業などの環境整備をおこなう。

８月22日・25日

調査区の草刈り等の環境整備を進める一方、１区の範囲決定のための布掘り作業を人力でおこなった。

８月26日～29日

26日から１区の重機による表土剥ぎ取り作業を実施する。南端部から開始して27日で終了する。また、重機による表土剥ぎ取りが終了した部分から面整理作業にはいる。遺構検出作業は27日から本格化し、29日までに終了する。写真撮影の後遺構精査を開始。

９月１日・２日

１日から１区の遺構精査を実施し、２日までにほぼ完掘する。その間土層断面や土層注記、写真撮影などの記録作業を平行しておこなう。２日から２区の範囲決定のための布掘り作業を開始する。

９月４日・５日

２区の布掘り作業を継続、５日までに終了する。また、４日に１区の清掃作業の後、業務委託による空中写真測量を実施した。５日は重機による１区の埋め戻しおよび現道の復旧作業をおこない、当日に終了する。

９月10日～12日

10日から２区の重機による表土剥ぎ取り作業を開始し、11日までに終了する。表土剥ぎ取りが終了した部分から面整理作業を実施し。12日に終了する。

９月16日～19日

16日から２区の遺構精査を開始する。各遺構は、断面観察および記録の後、完掘作業を実施する。記録作業では17日から２区全体の平面略測図の作成にはいり19日に完了する。また、調査区全体に１×１ｍの試掘坑を設定し、地山以下の状況を調査する。

９月22日・23日

遺構精査を継続、23日に業務委託による空中写真測量を実施した。

９月24日

調査説明会を開催する。平日ではあったが33名の参加者があった。

９月25日・26日

25日に残りの記録作業を終了し、重機による埋め戻し作業を実施し、当日中に終了する。26日に器材搬出し、現地調査を終了する。

Ⅳ　遺跡の概観

西山遺跡の範囲については、昭和53年発行の「山形県遺跡地図」では、ため池の北側に隣接して東西80m、南北100mの規模で括られていたが、平成12年に実施された山形県教育委員会による分布調査の結果（文化財第900号）から、北に範囲が拡大され南北280mとなった。なお添付された図上では東西方向も230mに拡大され、概ね鈎形を呈する面積約30,000㎡の集落跡であることが確認された（第２図）。今回の発掘調査は、遺跡範囲内を南北に縦断する現農道とその拡幅部分が対象となり、長さは範囲の南北長とほぼ同じ260m、幅７m前後、面積1,560㎡について実施した（第６図）。

調査区内の土層の堆積状況を確認するため、７箇所の試掘坑を設定し、地山以下まで深掘りを実施した（第７図　写真図版８）。現況では緩やかな起伏が連続し、よく自然地形を保っているようにみえたが、現在の農道部分ばかりでなく、果樹園や畑地の造成に際して表土がかなり動いていることが明らかとなった。ＴＰ１・ＴＰ３～７における表土は、暗褐色またはにぶい黄褐色のシルトが主体で、下層のシルトが大小のブロック状に混じる。層厚は15～20cmと薄く、遺構確認面となる２層との境界は、漸移せず明瞭に区分される。1区の北半以北では、尾根筋に乗っていることもあって、地山上面まで削平が及んでいるものと考えられる。

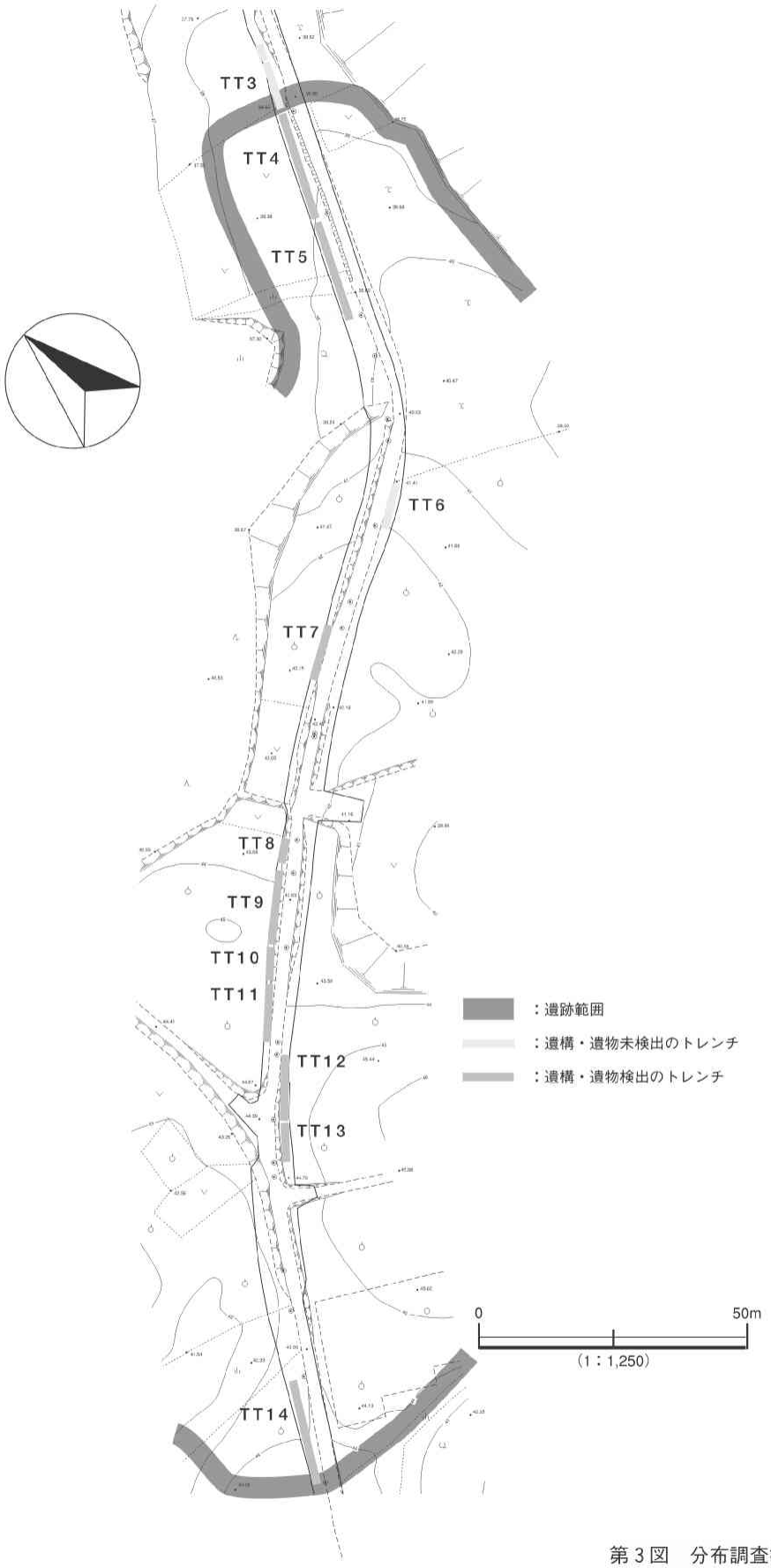
ＴＰ２付近を中心とする1区南半では、南西に向かって比較的急に傾斜しているために削平を免れており、黒褐色および黒色のシルトが層厚約70cmにわたって堆積し、漸移層（３層）をはさんで地山に至るプライマリーな堆積状況が観察された。

遺構確認面は、褐色または明褐色のシルトで硬くしまっている。それ以下の状況は、地表下１m付近までの掘り下げでは、地点によって１から４層に区分された。いずれの地点でもほぼ安定して堆積しているが、下層にいくほど粘性が増し、また風化礫の混入が目立ってくる。

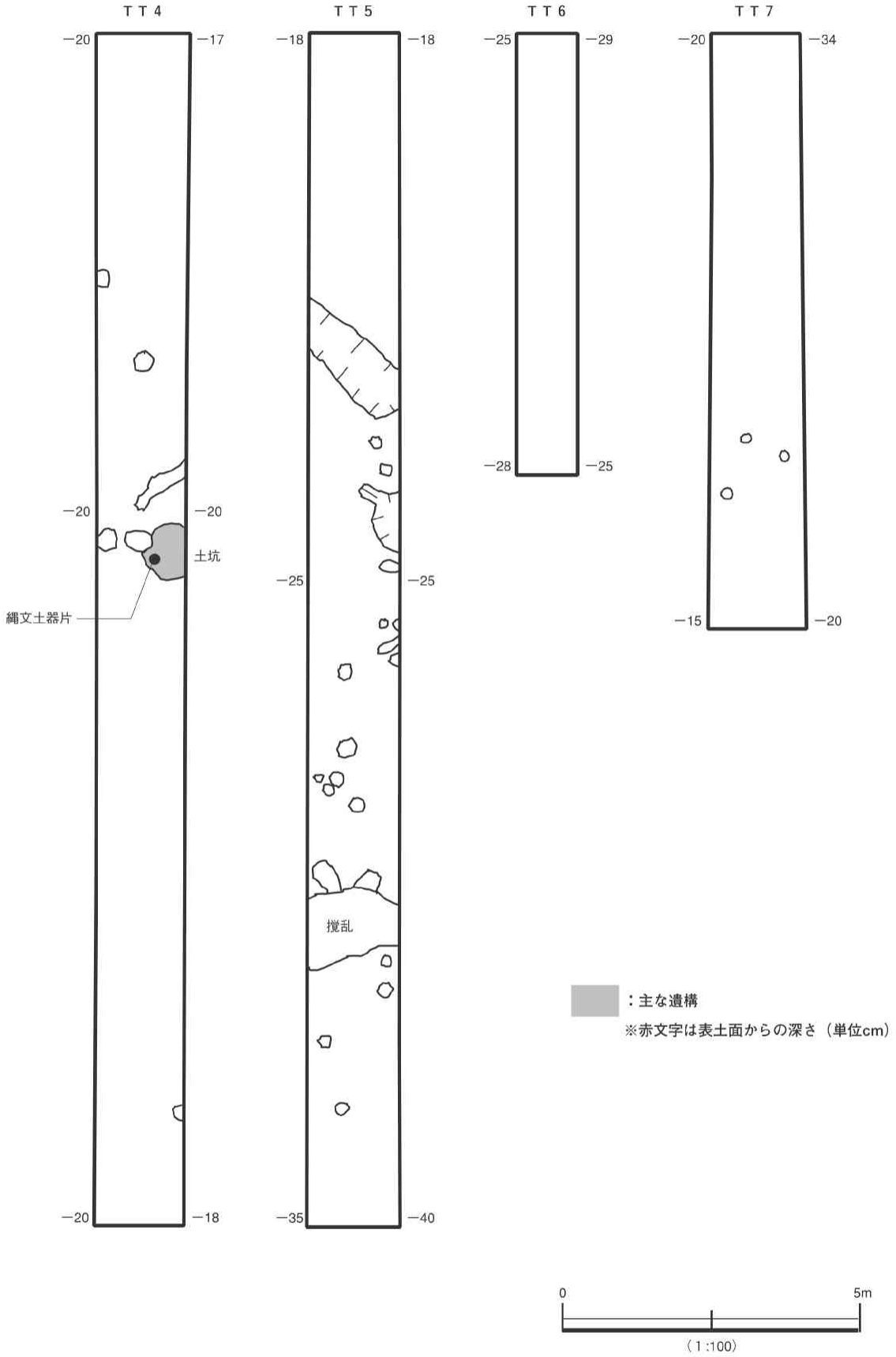
遺構は調査区全体に分布する。調査範囲が小規模なため、集落全体の構造を明らかにすることはできなかったが、相対的に1区より２区の密度が濃い。（第８図～第12図　写真図版13～17）。また、先に述べたように後世の削平によって浅い遺構が破壊されている可能性がある。１区では、直径10～30cm、深さ15～30cm程度の規模を持ったピットが主体となる。各ピット間の関係は間隔、方向ともに一定せず、建物跡等の施設と認められたものはない。SK１、SK２などのやや大形の土坑も検出されたが、性格は不明である。

２区でも１区と同様なピットが主体となるが、特に18～20－24～26区では土坑の分布が密である。２区の北半では、いずれも部分的な検出ながらSB98掘立柱建物跡およびSB99柱穴列を確認した。これらを構成する柱穴は、掘り方もしっかりとしており、アタリが明瞭に観察されたものが多い。また、SB99付近には、これらと同様な構造を持ったピットが数基検出されており、他の建物跡が存在した可能性がある。

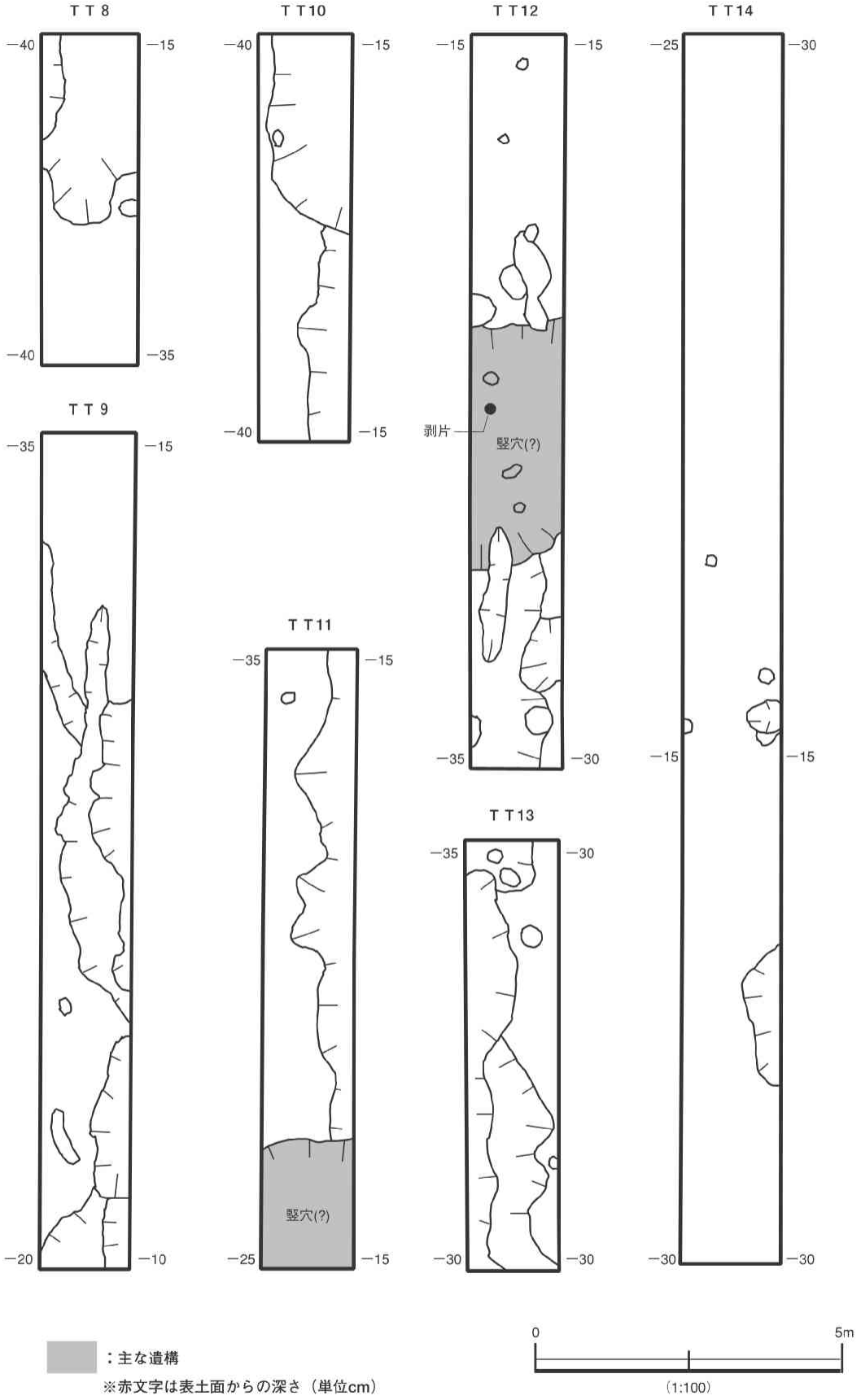
遺物は、縄文土器、石器、赤焼土器、須恵器が整理箱で２箱出土した。数量的に少なく、大半が面整理中に出土したものであるが、その分布状況は遺構の分布とほぼ一致している。遺構内出土遺物も摩滅したものが多く、その遺構の所属時期を示唆するものはごく少ない。


TT3
TT4
TT5
TT6
TT7
TT8
TT9
TT10
TT11
TT12
TT13
TT14
：遺跡範囲
：遺構・遺物未検出のトレンチ
：遺構・遺物検出のトレンチ
0
50m
（1：1,250）

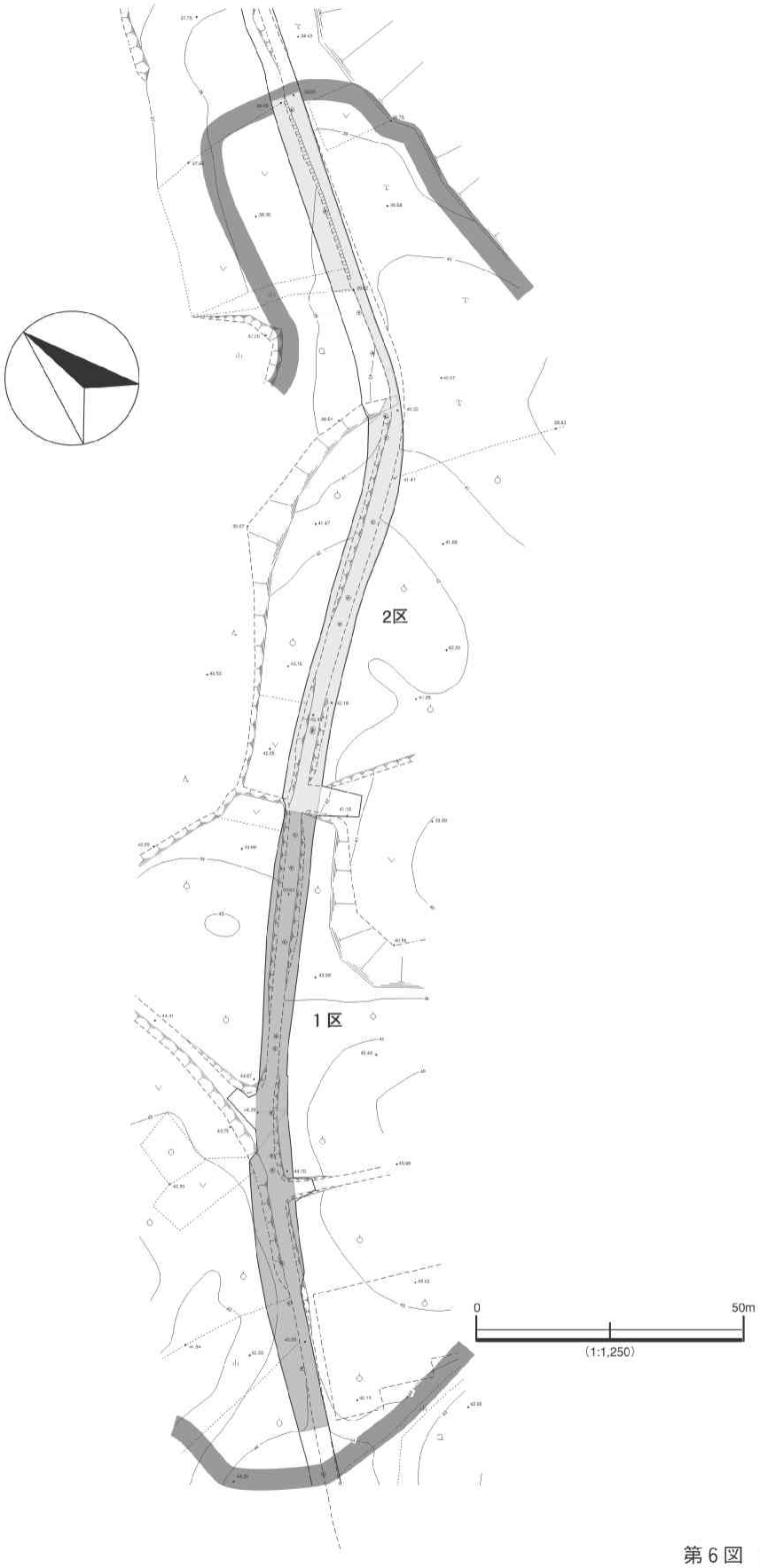
第３図　分布調査概要図


ＴＴ４
ＴＴ５
ＴＴ６
ＴＴ７
−20
−17
−18
−18
−25
−29
−20
−34
−28
−25
−20
−20
土坑
縄文土器片
−25
−25
−15
−20
撹乱
−20
−18
−35
−40
：主な遺構
※赤文字は表土面からの深さ（単位cm）
0
5m
（1:100）

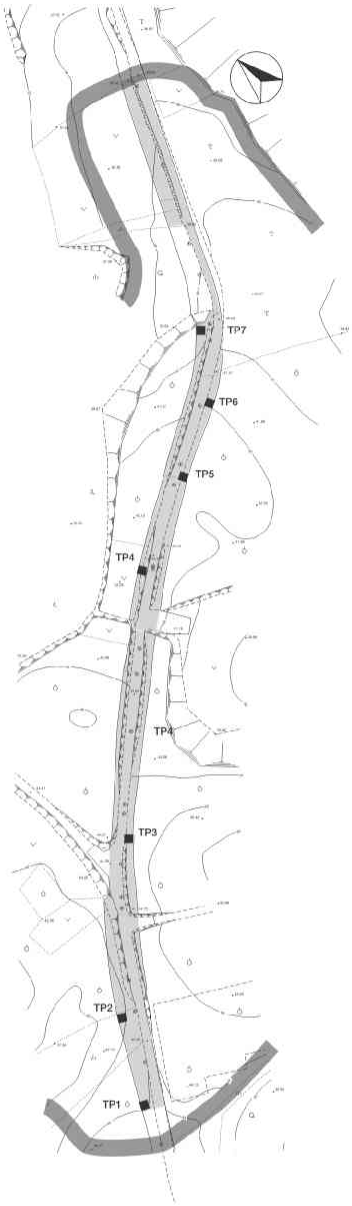
第４図　試掘溝平面図(1)

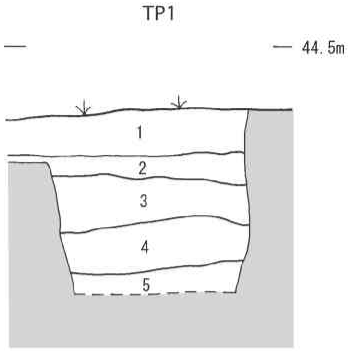

ＴＴ８
−40
−15
−40
−35
ＴＴ９
−35
−15
−20
−10
ＴＴ10
−40
−15
−40
−15
ＴＴ11
−35
−15
竪穴(?)
−25
−15
ＴＴ12
−15
−15
剥片
竪穴(?)
−35
−30
ＴＴ13
−35
−30
−30
−30
ＴＴ14
−25
−30
−15
−15
−30
−30
：主な遺構
※赤文字は表土面からの深さ（単位cm）
0
5m
(1:100)

第５図　試掘溝平面図(2)

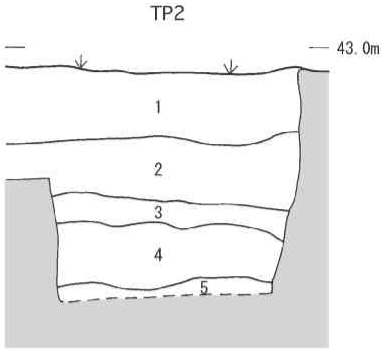


第６図　調査区概要図

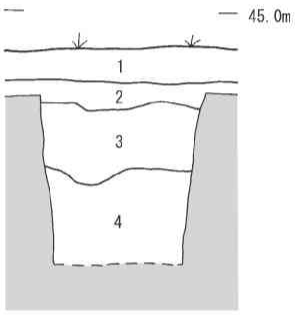




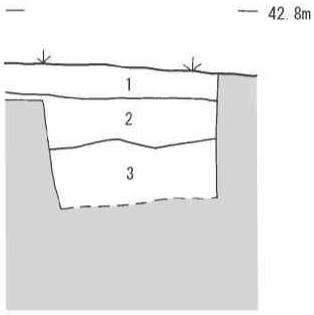
1　10YR3/4暗褐色シルト
　２層が下部に塊状にはいる。
2　10YR4/6褐色シルト
　10YR4/4褐色シルトが斑にはいる。
3　7.5YR5/6明褐色シルト
4　7.5YR5/6明褐色シルト
　10YR6/6明黄褐色シルトが下部に斑にはいる。
5　2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト



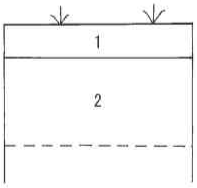
1　10YR3/2黒褐色シルト
2　10YR2/1黒色シルト
　10YR2/2黒褐色シルトが僅かに混じる。
3　10YR3/3暗褐色シルト
　10YR5/4にぶい黄褐色シルトが斑にはいる。
4　10YR6/6明黄褐色シルト
5　10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト
　10YR6/6明黄褐色シルトが斑にはいる。



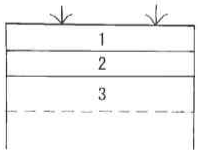
1　10YR3/3暗褐色シルト
2　10YR4/4褐色シルト
　10YR3/4暗褐色シルトが斑にはいる。
3　7.5YR5/6明褐色シルト
　10YR4/4褐色シルトが僅かに斑にはいる。
4　7.5YR5/6明褐色シルト



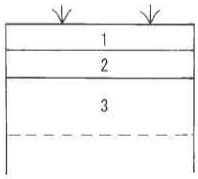
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
2　7.5YR5/6明褐色シルト
　7.5YR4/4褐色シルトが僅かに斑にはいる。
3　7.5YR5/8明褐色シルト



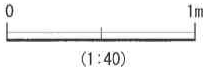
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
2　7.5YR5/8明褐色シルト



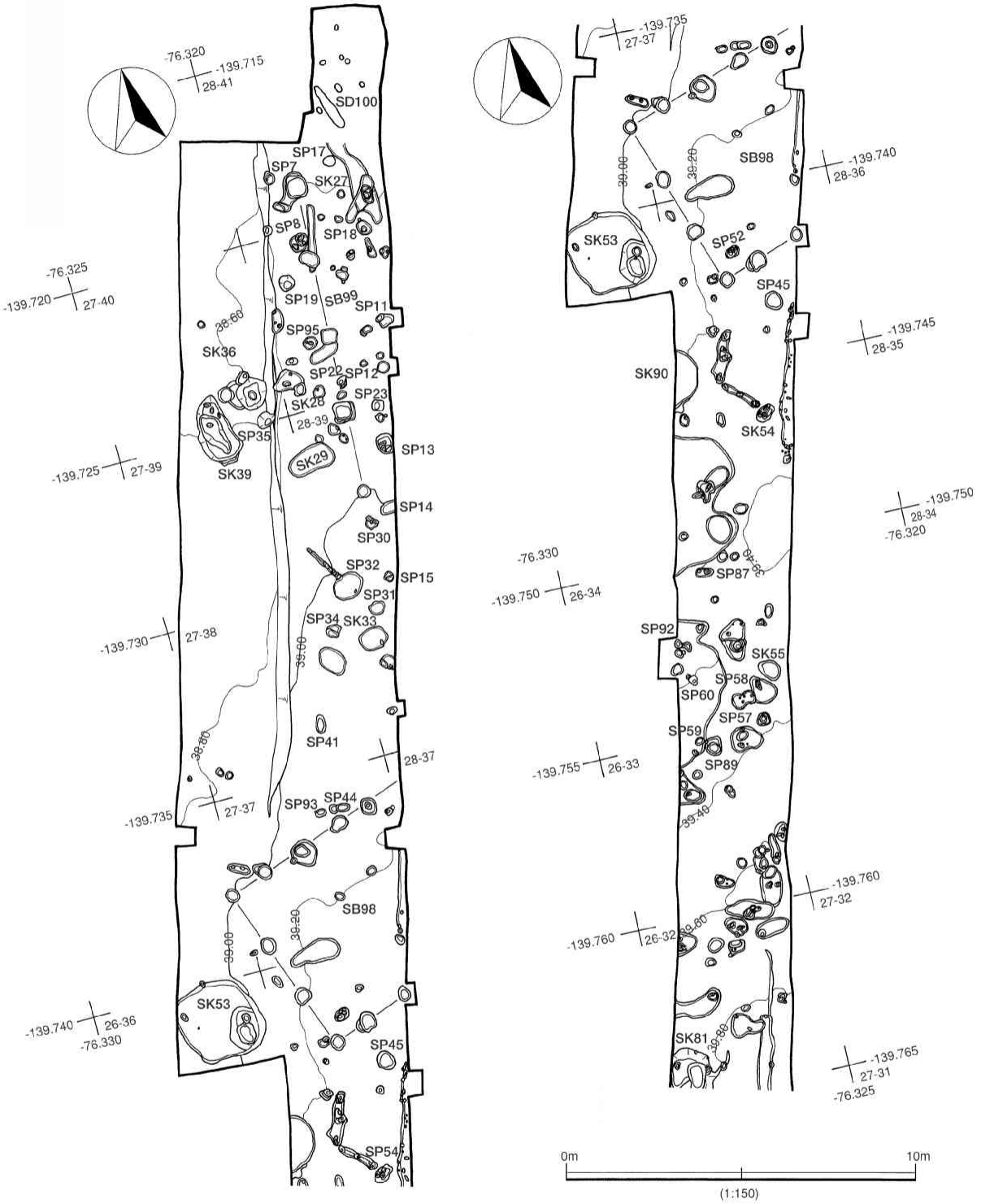
1　7.5YR3/4暗褐色シルト
2　7.5YR4/6褐色シルト　小礫が混じる。
3　7.5YR5/4にぶい褐色シルト　礫が混じる。



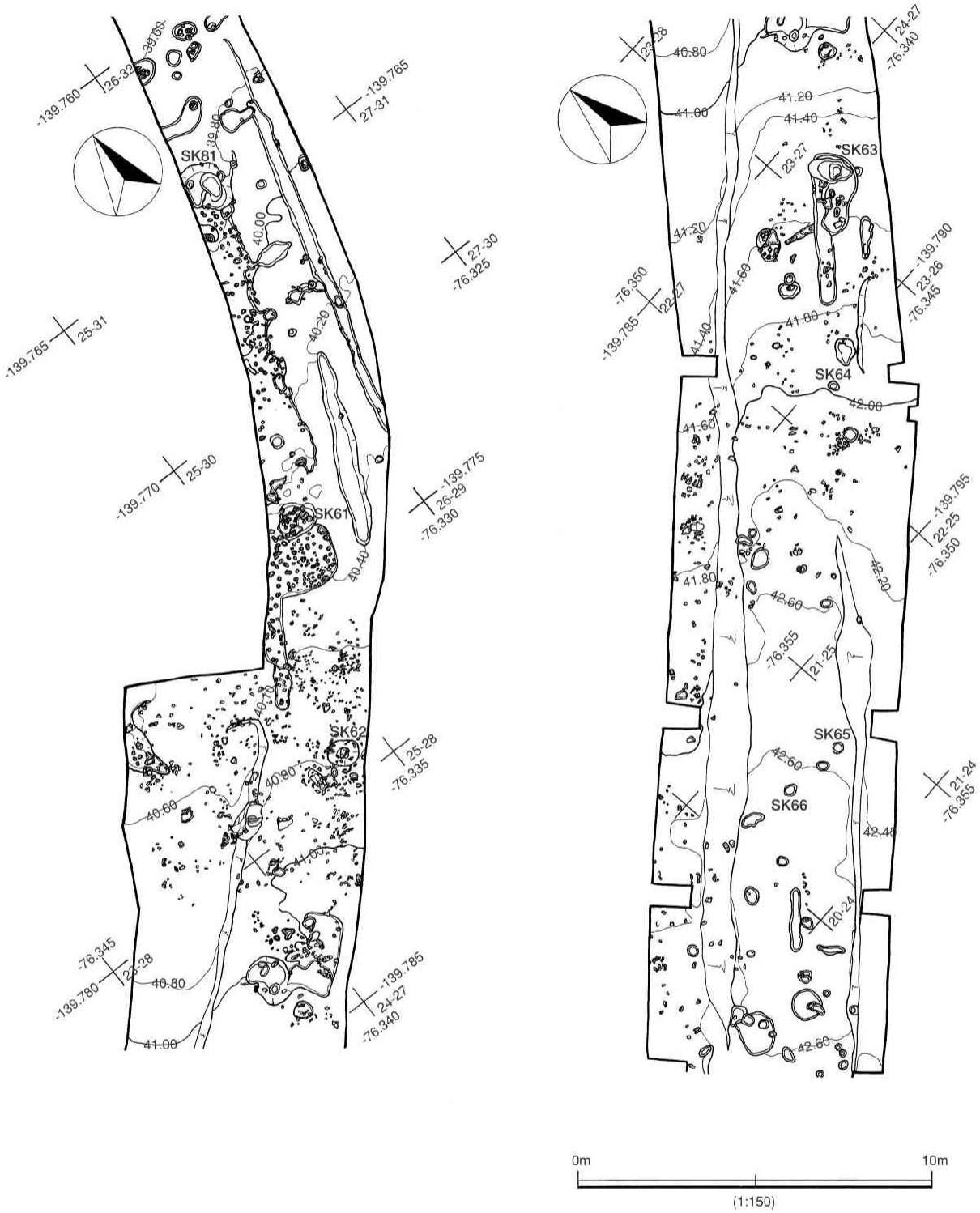
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
2　10YR4/6褐色シルト　小礫が混じる。
3　7.5YR5/8明褐色シルト



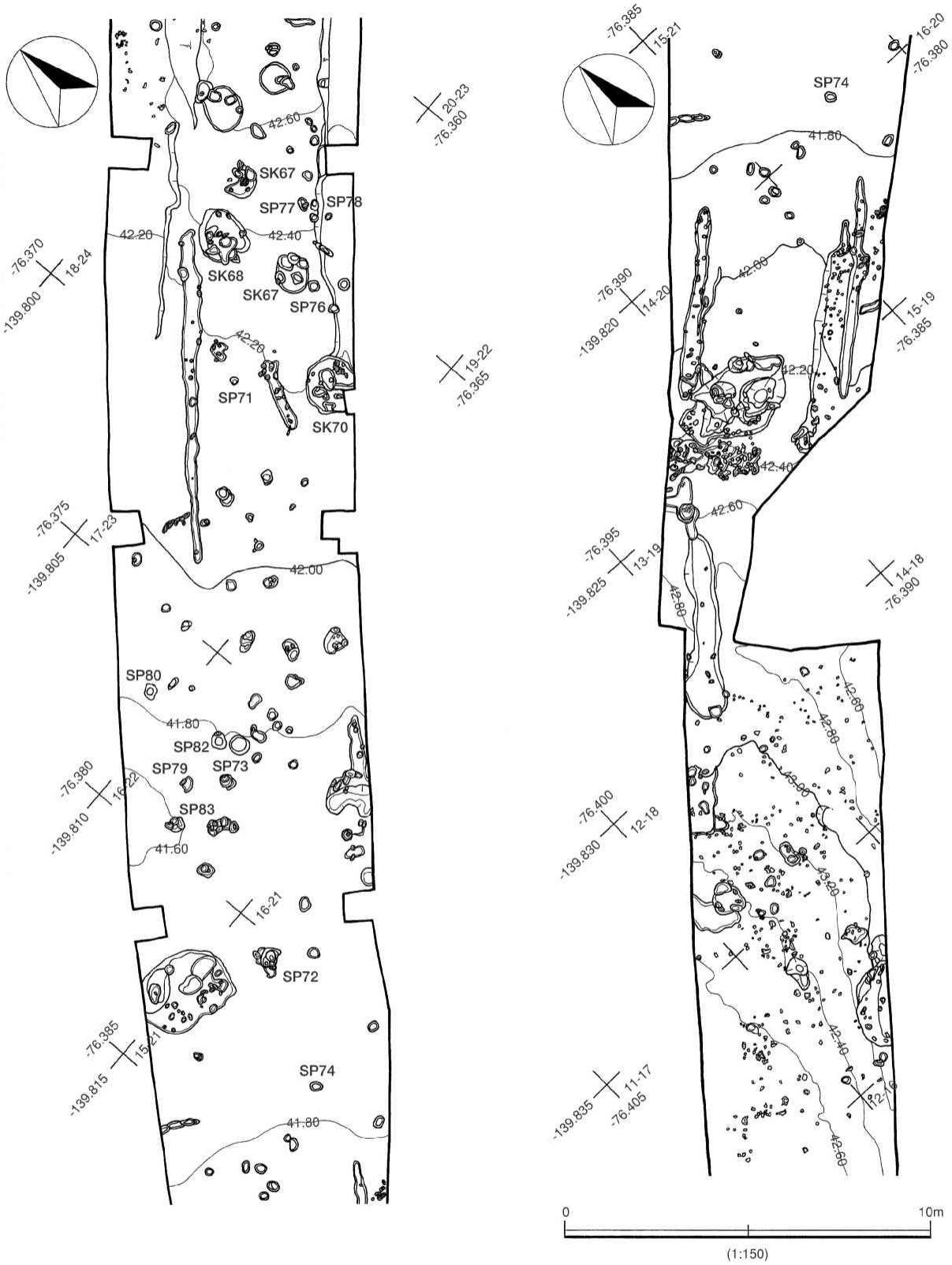
第７図　土層柱状図


-76.320
-139.715
28-41
SD100
SP17
SP7
SK27
SP8
SP18
-76.325
-139.720
27-40
SP19
SB99
SP11
38-60
SP95
SK36
SP22
SP12
SP23
SK28
28-39
SP35
SP13
-139.725
27-39
SK39
SK29
SP14
SP30
SP32
SP15
SP31
-139.730
27-38
SP34
SK33
39-00
SP41
38-80
28-37
-139.735
27-37
SP93
SP44
SB98
39-00
39-20
SK53
-139.740
26-36
-76.330
SP45
SP54
-139.735
27-37
SB98
-139.740
28-36
39-00
39-20
SK53
SP52
SP45
-139.745
28-35
SK90
SK54
-139.750
28-34
-76.320
-76.330
SP87
39-60
-139.750
26-34
SP92
SK55
SP58
SP60
SP57
SP59
-139.755
26-33
SP89
39-40
-139.760
27-32
-139.760
26-32
39-60
SK81
39-80
-139.765
27-31
-76.325
0m
10m
(1:150)

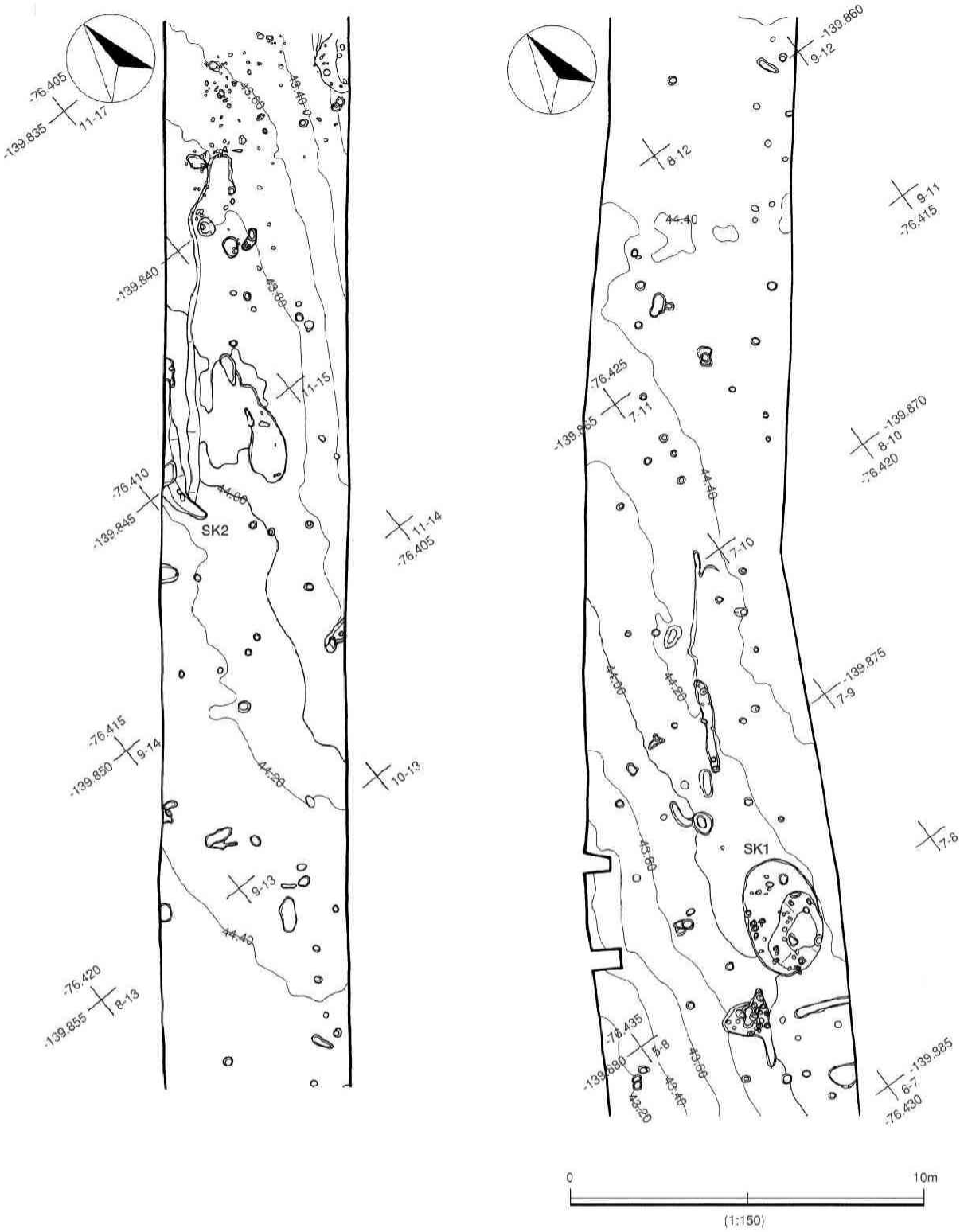
第８図　遺構配置図(1)



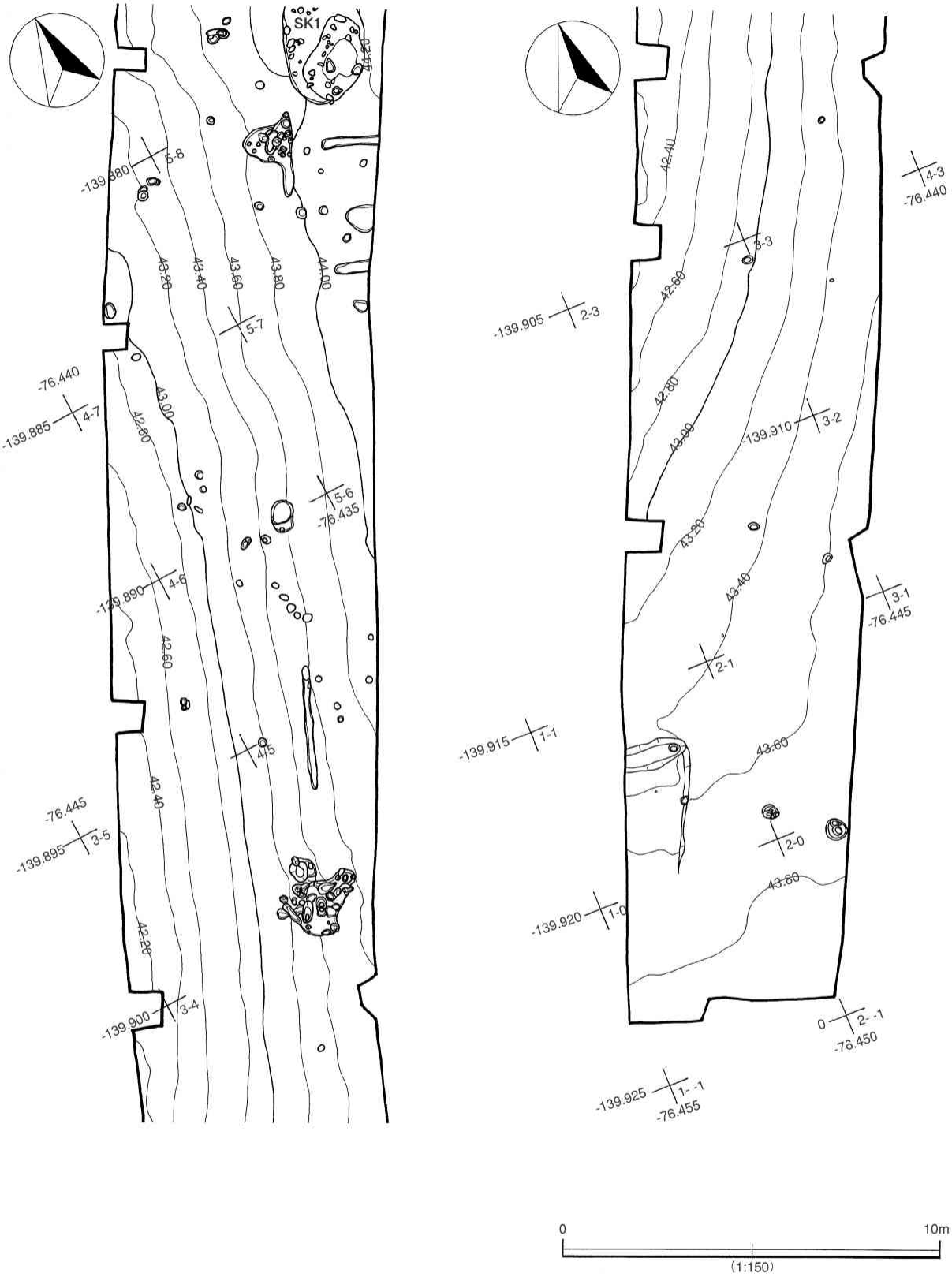
第９図　遺構配置図(2)


SK67
SP77
SP78
SK68
SK67
SP76
SP71
SK70
SP80
SP82
SP79
SP73
SP83
SP72
SP74
SP74
42.60
42.20
42.40
42.20
42.00
41.80
41.60
41.80
42.80
42.20
42.40
42.60
42.80
43.00
43.20
42.40
42.60
-76.370
-139.800
18-24
-76.375
-139.805
17-23
-76.380
-139.810
16-22
-76.385
-139.815
15-21
20-23
-76.360
19-22
-76.365
16-21
-76.385
15-21
16-20
-76.380
-76.390
-139.820
14-20
15-19
-76.385
-76.395
-139.825
13-19
14-18
-76.390
-76.400
-139.830
12-18
-139.835
11-17
-76.405
0
10m
(1:150)

第10図　遺構配置図(3)


-76.405
-139.835
11-17
43.60
43.40
-139.840
43.80
11-15
-76.410
-139.845
44.00
SK2
11-14
-76.405
-76.415
-139.850
9-14
44.20
10-13
9-13
44.40
-76.420
-139.855
8-13
-139.860
9-12
8-12
9-11
-76.415
44.40
-76.425
-139.865
7-11
-139.870
8-10
-76.420
44.40
7-10
44.00
44.20
-139.875
7-9
43.80
SK1
7-8
-76.435
-139.880
8-8
43.60
43.40
43.20
-139.885
6-7
-76.430
0
10m
(1:150)

第11図　遺構配置図(4)


SK1
-139.880
5-8
43.20
43.40
43.60
43.80
44.00
5-7
-76.440
-139.885
4-7
43.00
42.80
5-6
-76.435
-139.890
4-6
42.60
4-5
-76.445
-139.895
3-5
42.40
42.20
-139.900
3-4
42.40
4-3
-76.440
3-3
42.60
-139.905
2-3
42.80
43.00
-139.910
3-2
43.20
43.40
3-1
-76.445
2-1
-139.915
1-1
43.60
2-0
43.80
-139.920
1-0
0
2- -1
-76.450
-139.925
1- -1
-76.455
0
10m
(1:150)

第12図　遺構配置図(5)

Ⅴ　遺構と遺物

1　検出された遺構

今回の調査で検出された主な遺構は、掘立柱建物跡１棟、柱穴列１基である。そのほか多数のピットが検出されたが、建物跡として相互関連が確認されたものはない。土坑は、SK36・39（第8図27－39・40区）、SK53（第8図26－36区）で層位の逆転がみられ、倒木痕であることが確認されたほかは、いずれも時期、性格ともに不明である。以下では掘立柱建物跡、柱穴列および主なピットについて記述する。

SB98（第13図　写真図版４・５・14）

２区北半26・27－36・37区で検出された掘立柱建物跡である。東側は調査区外となり、正確な規模は把握できないものの東西棟の建物と推定される。平面プランは東西4.5m以上、南北５mの長方形を呈するものと考えられる。柱穴は10基検出され、梁行３間、桁行４間以上を構成するが、EB43・50・94については構築時の補助柱の可能性がある。柱穴の平面形は径40～60cmの不整円形や楕円形となり、確認面からの深さは25～50cmの規模をもつ。いずれも柱痕は依存していない。直径20cm前後のアタリが観察されたものが多い。柱穴から遺物は出土せず、所属時期の認定は困難であるが、建物の構造ならびに付近の遺物出土状況から平安時代の所産と考えられる。

SB99（第14図　写真図版６・７・13）

２区北端部28－39～41区で検出された柱穴列である。ほぼ南北方向に軸線をもつ。６基の柱穴が一直線に配置され、このうちEB26～EB６間は2.3mの等間隔となる。SP30は同一軸線上にあるが、浅く間隔も違うため遺構因子には組み入れていない。柱穴の平面形は、不整隅丸方形が主体となる。規模は最大のEB26で長軸長78cm、確認面からの深さ56cm、最小のEB６で最大径42cm、深さ14cmである。遺物は、EB５から縄文土器片、EB４から赤焼土器坏、EB３から須恵器甕の破片が出土している。これらの状況から本柱穴列は平安時代の所産と考えられる。

SP７（第８・14図　写真図版13）

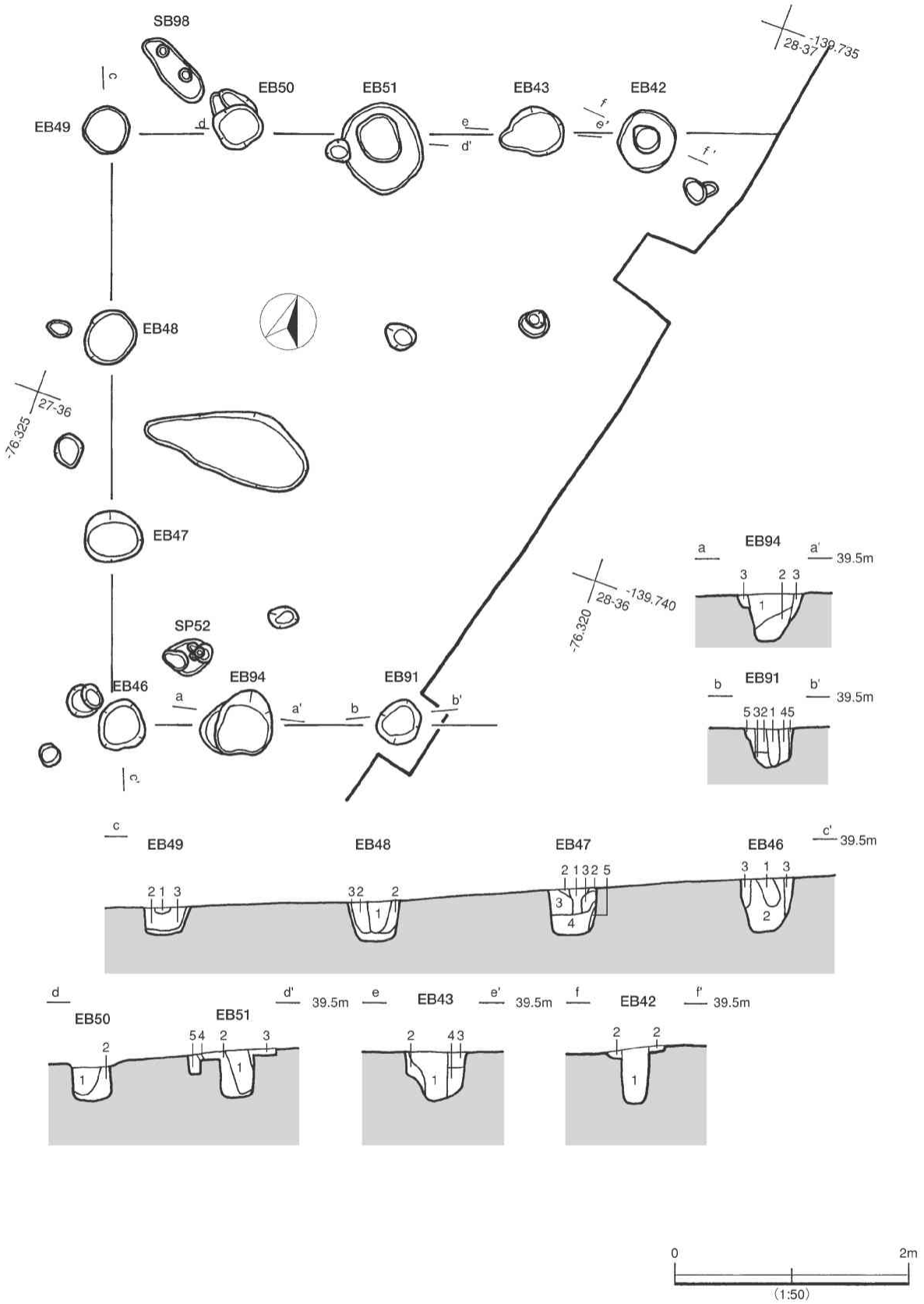
２区北端部28－41区で検出された。SB99EB26の西に隣接する。長軸長40cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ18cmを測る。中央にアタリ（抜取痕か）が確認された。遺物は出土していない。

SP８（第８・14図　写真図版13）

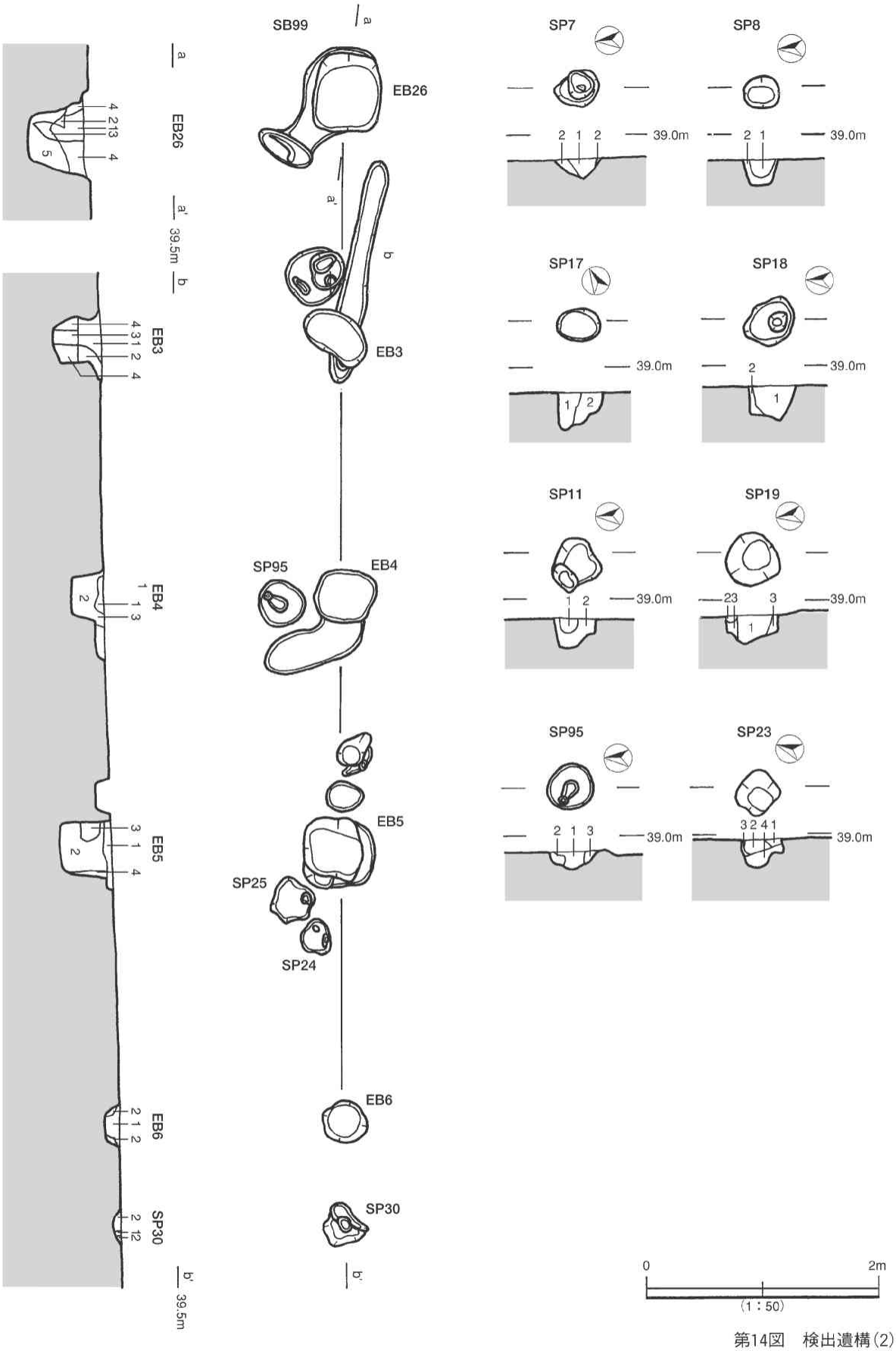
２区北端部28－41区で検出された。SP７の南1.5mに所在する。長軸長32cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ23cmを測る。遺物は出土していない。

SP17（第８・14図　写真図版13）

２区北端部28－41区で検出された。SB99EB26の東１mに所在する。長軸長40cmの楕円形を呈し、確認面からの深さ32cmを測る。西半部分に径20cmのアタリが確認された。遺物は出土していない。


SB98
EB49
EB50
EB51
EB43
EB42
EB48
EB47
SP52
EB46
EB94
EB91
28-37
-139.735
27-36
-76.325
28-36
-139.740
-76.320
39.5m
0
2m
(1:50)

第13図　検出遺構(1)


SB99
EB26
EB3
SP95
EB4
EB5
SP25
SP24
EB6
SP30
a
a'
b
b'
39.5m
SP7
SP8
SP17
SP18
SP11
SP19
SP95
SP23
39.0m
0
2m
(1：50)

第14図　検出遺構(2)

表－１　掲載遺構土層注記

SB98

EB94

1 10YR4/6褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルトが僅かに斑に混じる。
2 10YR3/3暗褐色シルト
3 10YR4/6褐色シルト　濁りのある地山土。

EB91

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR4/4褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが僅かに斑に混じる。
5 10YR4/6褐色シルト　濁りのある地山土。

EB49

1 10YR3/3暗褐色シルト
2 10YR3/4暗褐色シルト
3 7.5YR5/6明褐色シルト　濁りのある地山土。

EB48

1 10YR3/3暗褐色シルト　10YR3/2黒褐色粘土が塊状に一部はいる。
2 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。
3 7.5YR4/4褐色シルト　濁りのある地山土。

EB47

1 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/4にぶい黄褐色シルトが小塊状にはいる。
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが僅かに混じる。
3 10YR4/6褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。
4 10YR3/3暗褐色シルト
5 7.5YR4/4褐色シルト　濁りのある地山土。

EB46

1 10YR3/3暗褐色シルト　炭化粒僅かと、小塊状の10YR4/4褐色シルトが混じる。
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
3 10YR4/4褐色シルト

EB50

1 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。

EB51

1 10YR3/2黒褐色シルト　炭化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/6褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR4/4褐色シルト
4 10YR4/4褐色粘土質シルト
5 10YR3/3暗褐色シルト　ピット覆土。

EB43

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR2/3黒褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/4褐色シルト
3 10YR4/4褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト

EB42

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR2/3黒褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/4褐色シルト

SB99

EB26

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR2/3黒褐色シルト、炭化物が斑に混じる。
2 10YR2/1黒色シルト
3 10YR2/2黒褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトが小塊状にはいる。
4 10YR3/3暗褐色シルト　炭化粒僅かと、小塊状の10YR4/4褐色シルトが混じる。
5 10YR3/2黒褐色シルト　炭化物と10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。

EB3

1 10YR4/4褐色シルト　硬くしまる。
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　炭化物、10YR5/6黄褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR3/3暗褐色シルト　炭化粒僅かに含む。
4 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。

EB4

1 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/6褐色シルトが小塊状に僅かにはいる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
3 10YR4/4褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルトが小塊状にはいる。SK10覆土。

EB5

1 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物が混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物、10YR4/6褐色シルトが小塊状にはいる。
3 10YR4/6褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
4 7.5YR5/6明褐色シルト　濁りのある地山土。

EB6

1 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。

SP30

1 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/4褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/4褐色シルト

SP7

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR4/4褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトが斑に混じる。

SP8

1 10YR3/4暗褐色シルト　7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。
2 7.5YR5/6明褐色シルト　濁りのある地山土。

SP17

1 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルトが僅かに斑に混じる。

SP18

1 10YR3/4暗褐色シルト　7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。
2 7.5YR5/6明褐色シルト　濁りのある地山土。

SP11

1 10YR3/4暗褐色シルト　炭粒、10YR4/6褐色シルトが僅かに斑に混じる。
2 10YR5/6黄褐色シルト

SP19

1 10YR3/3暗褐色シルト　炭化物がごく僅かに混じる。10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR4/4褐色シルト
3 10YR5/6黄褐色シルト

SP95

1 10YR3/4暗褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/6褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
3 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物、10YR4/6褐色シルトが斑に混じる。

SP23

1 10YR2/1黒色シルト
2 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物混じる。10YR4/3にぶい黄褐色シルトが僅かに混じる。
3 10YR4/4褐色シルト
4 10YR3/4暗褐色シルト　炭化物混じる。

SP18（第８・14図　写真図版13）

２区北端部28－40区で検出された。SB99EB３の東1.8mに位置する。長軸長50cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ30cmを測る。底面の南寄りに径20cmの円形の浅い落ち込みが確認された。硬くしまっておりアタリの痕跡をとどめるものとみられる。遺物は出土していない。

SP11（第８・14図　写真図版13）

２区北端部28－40区で検出された。SB99EB４の東1.8mに位置する。一辺45cmの不整隅丸方形を呈し、確認面からの深さ30cmを測る。底面西寄りに長径30cmの浅い落ち込みが確認された。遺物は出土していない。

SP19（第８・14図　写真図版13）

２区北端部28－40区で検出された。SB99EB４の南西１mに位置する。径46cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

SP95（第８・14図）

２区北端部28－40区で検出された。SB99EB４の西に隣接する。径46cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

SP23（第８・14図　写真図版13）

２区北端部28－40区で検出された。SB99EB５の東１mに位置する。長辺40cm、短辺32cmの不整隅丸長方形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

2　出土した遺物

縄文土器（第15図１～９　写真図版18）

９点出土した。１・２はSP93（第8図27－37区）覆土内から出土した深鉢の破片で、口唇部に棒状工具による斜め方向からの連続した刻み目がはいるほかは地文のみが施文される。３はSK２（第11図10－５区）から出土した鉢形土器の体部破片、５～９はSB99EB５の覆土内から出土した同一個体とみられる深鉢の体部破片である。

石器・剥片（第15図10～12　写真図版18・19）

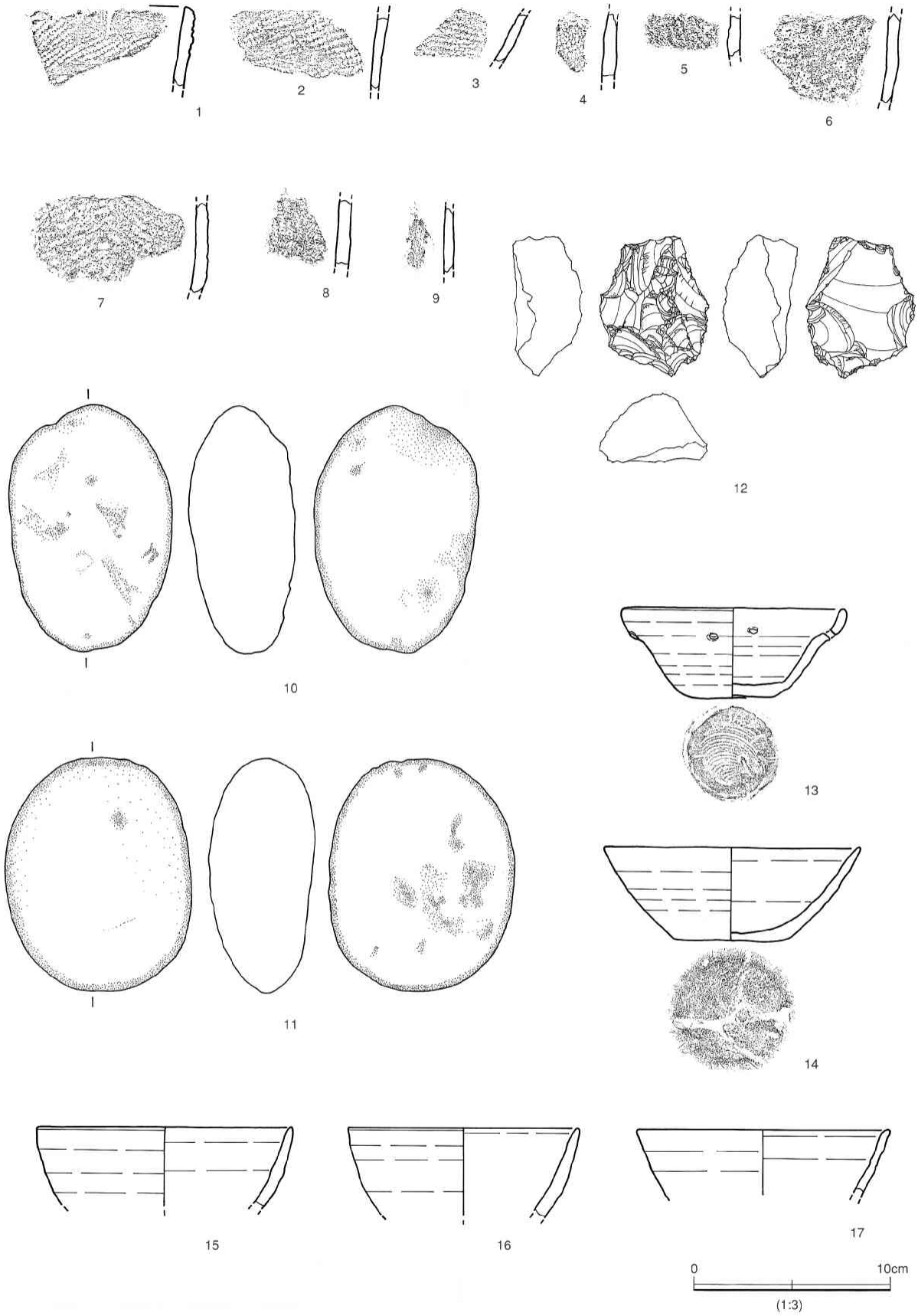
磨石２点、剥片素材の石核１点、剥片７点が出土した。

赤焼土器（第15図13～17・第16図１～12　写真図版20・21）

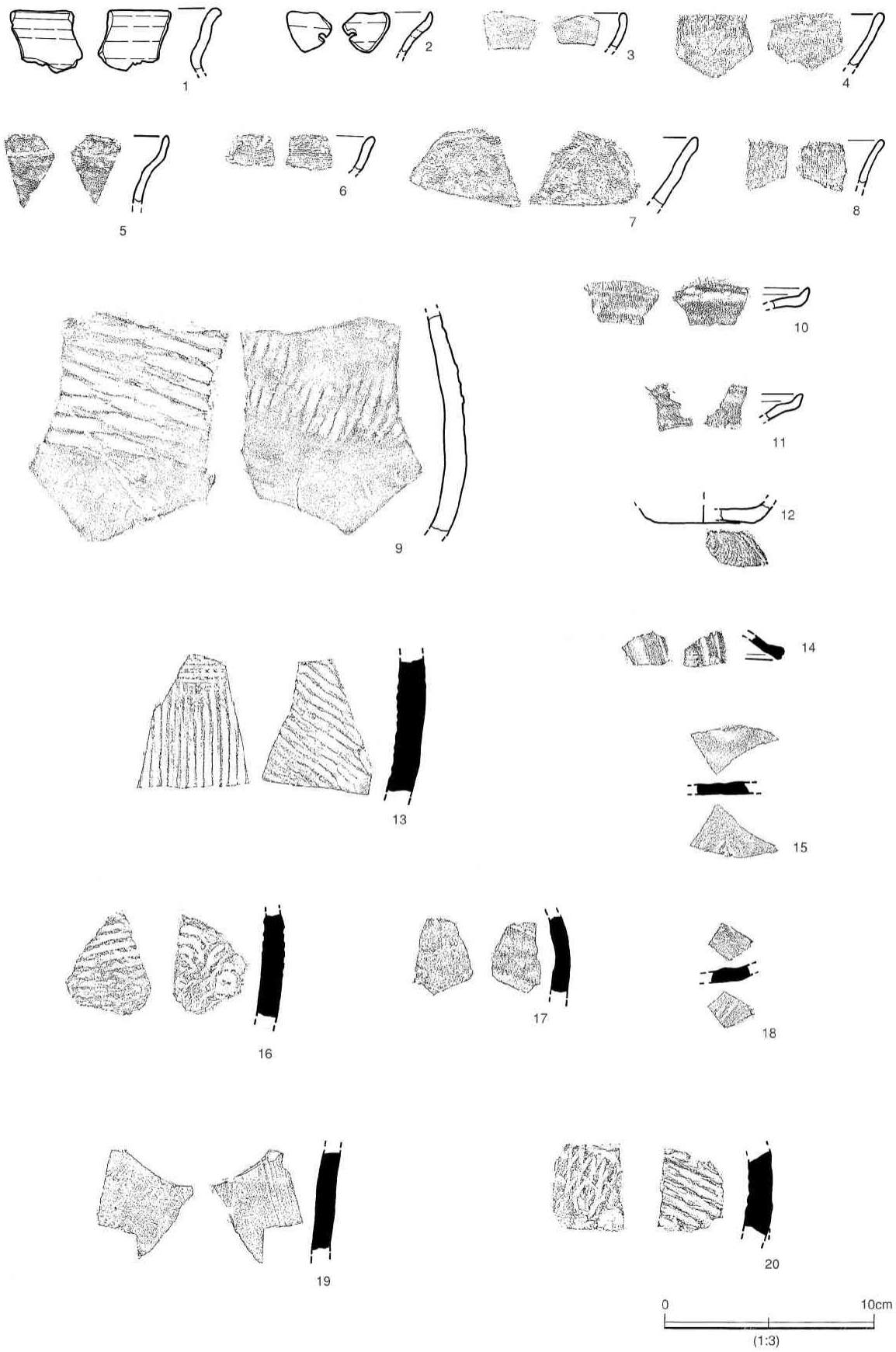
赤焼土器は数量的に最も多く出土しているが、摩滅が著しく図化できなかったものが多い。器種は坏および甕が確認できる。第15図13はSP92（第18図26－34区）から出土した坏である。焼成前に頸部の３箇所に穿孔されており、また、内面に煤の付着がみられることから、吊るして使用する灯明皿と考えられる。14はSB99EB４覆土上面からの出土である。摩滅が顕著であるが底部切り離しが回転糸切であることが観察された。

須恵器（第16図13～20　写真図版22）

いずれも破片で8点が出土した。器形を把握できるものはないが、器種には坏、蓋、甕、壺が確認できる。坏は底部破片が２点出土した（第16図15・18）。いずれも底部切り離しが回転ヘラ切りである。



第15図　出土遺物(1)



第16図　出土遺物(2)

表－２　遺物観察表

縄文土器

図番号	写 真	器種	出土地点	調整・文様	備考
15-1	18-1	深鉢	SP93	口縁部刻目、外面単節LR	
15-2	18-2	深鉢	SP93	外面単節LR	15-1・2同一個体
15-3	18-4	鉢	SK2	外面単節LR	内面炭化物付着
15-4	18-3	深鉢	２区	外面単節LR	
15-5	18-8	深鉢	SB99EB5	外面単節LR	外面炭化物付着
15-6	18-7	深鉢	SB99EB5	外面単節LR	被熱
15-7	18-5	深鉢	SB99EB5	外面単節LR	外面炭化物付着
15-8	18-9	深鉢	SB99EB5	外面単節LR	外面炭化物付着
15-9	18-6	深鉢	SB99EB5		15-5～9同一個体

赤焼土器

図番号	写 真	器種	出土地点	口径	底径	器高	調整・文様	備考
15-13	20-1	坏	SP92	(114)	46	45	ロクロ、口縁下穿孔、底部回転糸切	RP1、内底面煤付着
15-14	20-2	坏	SB99EB4	(130)	52	48	ロクロ、底部回転糸切	内外面被熱
15-15	20-6	坏	SK28	(130)		[39]	ロクロ	
15-16	20-7	坏	SK28	(118)		[44]	ロクロ	15-15・16同一個体？
15-17	20-4	坏	SP24	(130)		[32]	ロクロ	
16-1	21-2	甕	SD100				内外面ヨコナデ	
16-2	20-5	坏	SP89				ロクロ、口縁下穿孔	摩滅顕著
16-3	21-4	坏	２区				ロクロ	
16-4	20-3	坏	２区				ロクロ	
16-5	21-5	坏	SP60				ロクロ	摩滅顕著
16-6	21-6	坏	SK29				ロクロ	
16-7	20-8	坏	２区				ロクロ	
16-8		坏	SK90				ロクロ	
16-9	21-1	甕	SP89				外面平行タタキ、内面平行アテ	
16-10	21-3	甕	SP79				ロクロ	
16-11		甕	SP87				ロクロ	
16-12	21-7	坏	２区		(50)	[9]	ロクロ、底部回転糸切	

須恵器

図番号	写 真	器種	出土地点	調整・文様	備考
16-13	22-3	甕	SB99EB3	外面平行タタキ、内面平行アテ	
16-14	22-4	蓋	１区	ロクロ	
16-15	22-1	坏	２区	ロクロ、底部回転ヘラ切	
16-16	22-5	甕	１区	外面自然釉・平行タタキ、内面青海波アテ	摩滅顕著
16-17	22-7	壺	２区	ロクロ、外面自然釉	
16-18	22-2	坏	２区	ロクロ、底部回転ヘラ切	
16-19	22-8	壺？	SK61	内外面ロクロ・カキ目	
16-20	22-6	甕	２区	外面平行タタキ、内面平行アテ	

石器

図番号	写 真	器種	出土地点	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
15-10	19-3	磨石	２区	124	82	54	585	
15-11	19-2	磨石	２区	119	94	53	748	
15-12	19-1	石核	２区	69	55	32	122.1	表面摩滅
	18-10	剥片	SK53	96.5	36	10	22.7	
	18-11	剥片	２区	27	20.2	7	3.7	
	18-12	剥片	SP89	27.2	27.2	7.7	6.1	基部欠損
	18-13	砕片	２区	24.3	6.6	4.6	2	火ハネ
	18-14	砕片	２区	28.4	31	18.5	10.9	
	18-15	砕片	２区	20	11	6.7	0.9	2次調整痕あり、tool砕片？
	18-16	剥片	SB99EB26	27	15.2	3.9	1.7	

※　重さの単位はｇ、他はmm、（　）の数値は推定値、［　］の数値は残存値

Ⅵ　調査のまとめ

中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区に係る柿里３号線農道改築工事に先立ち平成15年度に緊急発掘調査が実施された西山遺跡は、山形県東田川郡藤島町大字添川字西山に所在し、京田川と藤島川にはさまれた月山泥流台地の末端付近に立地する。遺跡の面積は約30,000㎡で、今回は1,560㎡を対象に発掘調査を実施した。出土遺物は整理箱で２箱である。以下に調査の結果を要約する。

遺構は調査区全体に分布するが、特に遺跡北端に近い２区北半に集中する傾向がみられた。この区域からはSB98掘立柱建物跡とSB99柱穴列が検出された。調査区の狭さから施設の全容を明らかにすることはできなかったが、比較的しっかりとした掘り方をもつ柱穴により構成されており、また、柱穴内や付近の出土遺物から平安時代の所産と推定された。そのほかの土坑、ピット、溝跡については、赤焼土器がまとまって出土したSP92およびSK28が平安時代の遺構と推定できるものの、多くは遺物の出土がなく、また、出土した場合でも２次的な流れ込みとみられるものが多いこと、遺構堆積土の土色変化が乏しいことなどから、時期認定が非常に困難である。これらについては、今後より詳細な検討が必要である。

遺物は縄文土器、石器、赤焼土器、須恵器が出土した。

縄文土器は、口唇に刻みのあるもののほかは地文のみが施文された小破片であり時期認定が困難であるが、いずれも比較的薄手であり、胎土や焼成の特徴から、後期または晩期に所属する可能性が看取される。

石器はいわゆるtoolが磨石２点のみと非常に少ない。石核および剥片も含め、出土状況から縄文時代のものと推定されるが、詳細は不明である。

平安時代の遺物は、須恵器と赤焼土器が出土したが、その比率は赤焼土器がかなり高い。形態が復元できたものは赤焼土器の坏２点のみで、内１点は頸部が穿孔された灯明皿と考えられる。いずれもやや深身で底部切り離しが回転糸切の底径が小さい形態となる。器形の特徴および須恵器の出土数量が少ないことから、多くの遺物は概ね10世紀代の所産と考えられるが、回転ヘラ切りの底部をもつ須恵器坏破片も出土していることから、ある程度の時期幅も考慮しなければならないであろう。

引用文献

羽黒町教育委員会(1973)「玉川遺跡資料編Ⅰ」
山形県教育委員会(1981)「郷の浜Ｊ遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第50集
藤島町教育委員会(1981)「石欠遺跡発掘調査報告書」藤島町埋蔵文化財調査報告書第2集
山形県教育委員会(2001)「分布調査報告書(27)」山形県埋蔵文化財調査報告書第201集
山形県教育委員会(2002)「分布調査報告書(28)」山形県埋蔵文化財調査報告書第202集
山形県教育委員会(2003)「分布調査報告書(29)」山形県埋蔵文化財調査報告書第203集
山形県教育委員会(2004)「分布調査報告書(30)」山形県埋蔵文化財調査報告書第204集

写真図版

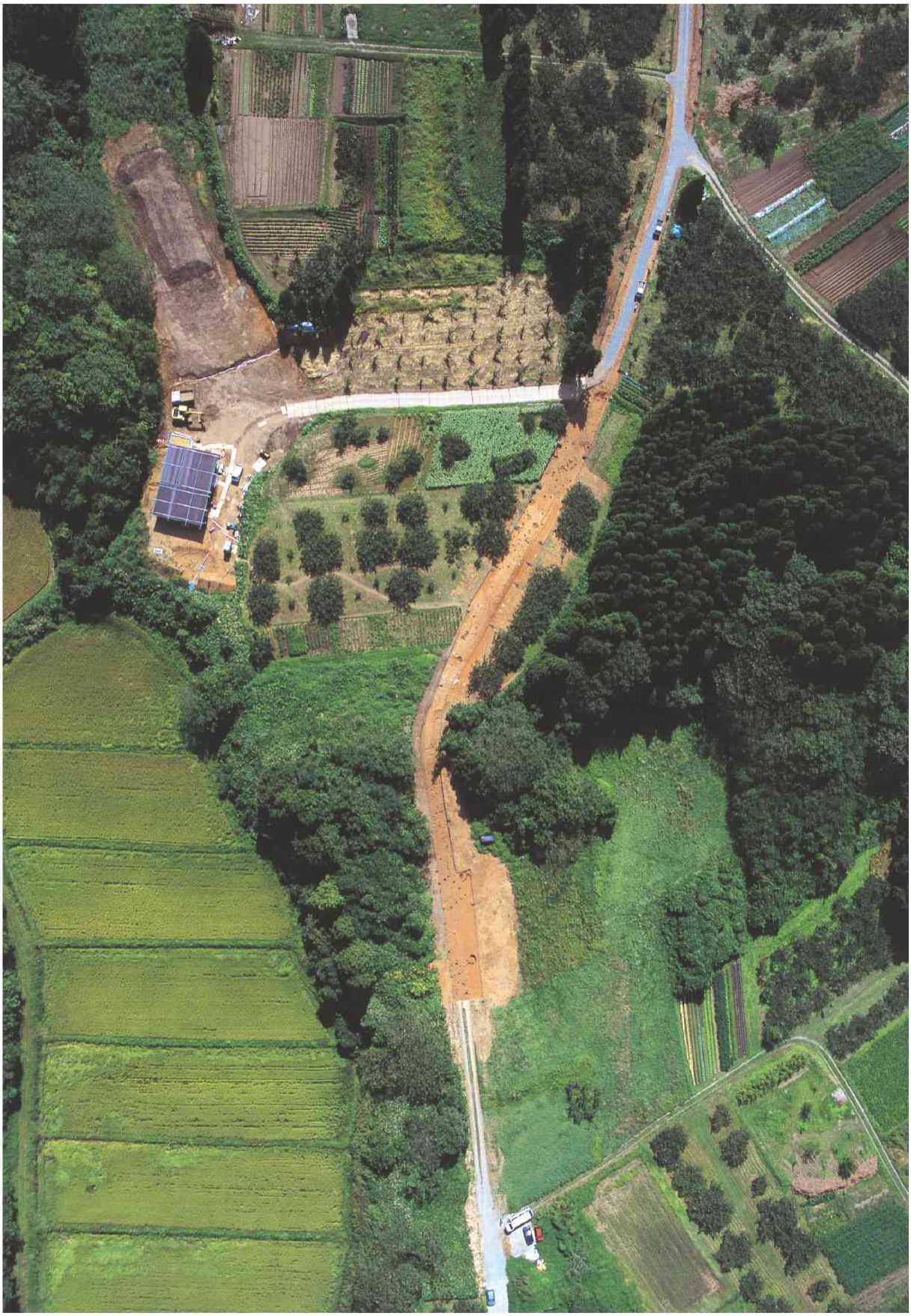
調査説明会

1区調査開始前の状況（南から）

2区調査開始前の状況（北から）

遺跡近景（南から）

遺跡近景（北から）



調査区全景（上が南）

SB98調査状況（西から）

SB98 EB47土層断面（南西から）

SB98 EB49土層断面（南西から）

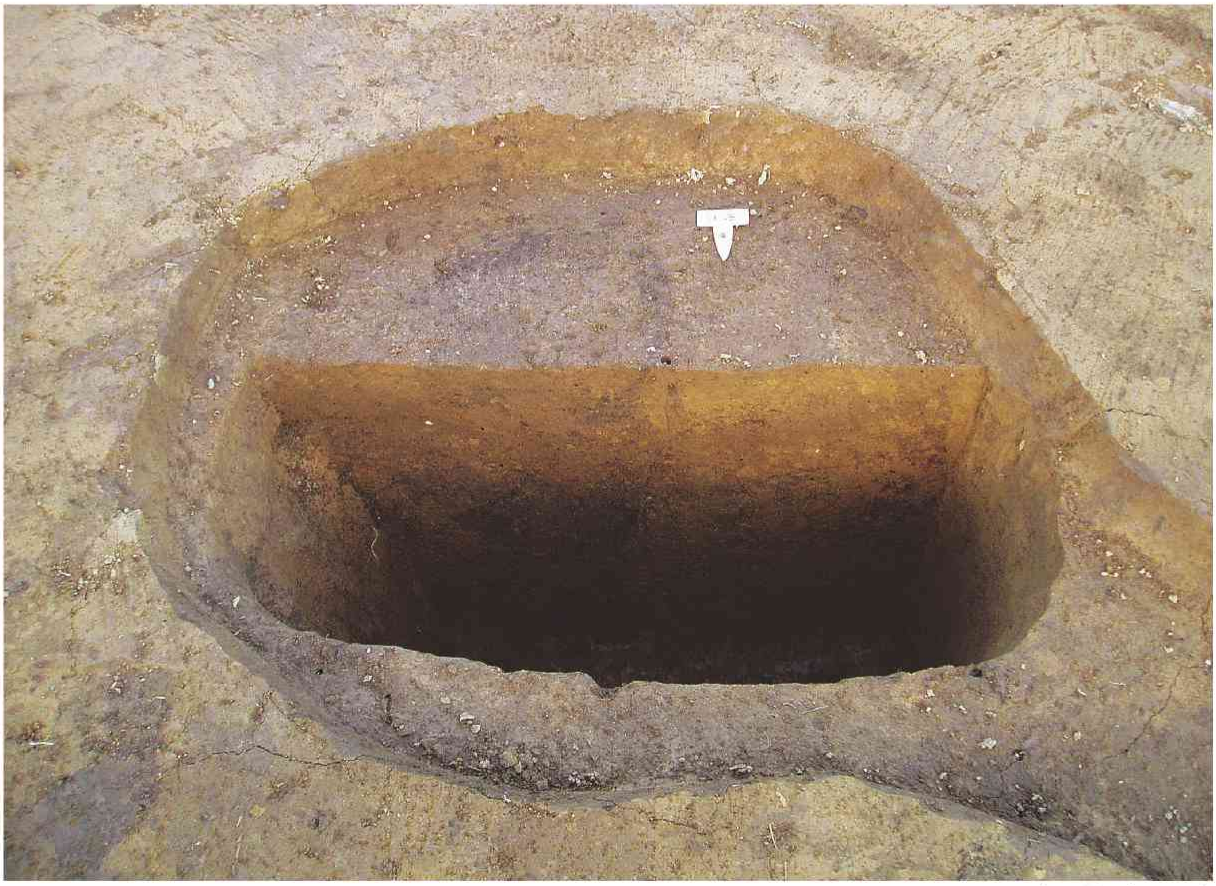
SB98 EB51土層断面（南から）

SB98 EB91土層断面（西から）

SB98完掘状況（西から）

SP92 RP1出土状況（東から）

SB99 EB4土層断面（西から）



SB99 EB26土層断面（西から）

BS99完掘状況（北から）

1区TP2土層断面（東から）

2区TP4土層断面（東から）

TT4遺構検出状況（南西から）

TT5（北から）

TT6（南から）

TT8（南から）

TT9（北から）

TT10（北から）

TT11（北から）

TT12（北から）

TT13（南から）

TT14（南から）

布掘作業

重機による表土剥ぎ取り

1区面整理作業

1区埋め戻し

2区面整理作業

遺構精査

記録作業

2区埋め戻し

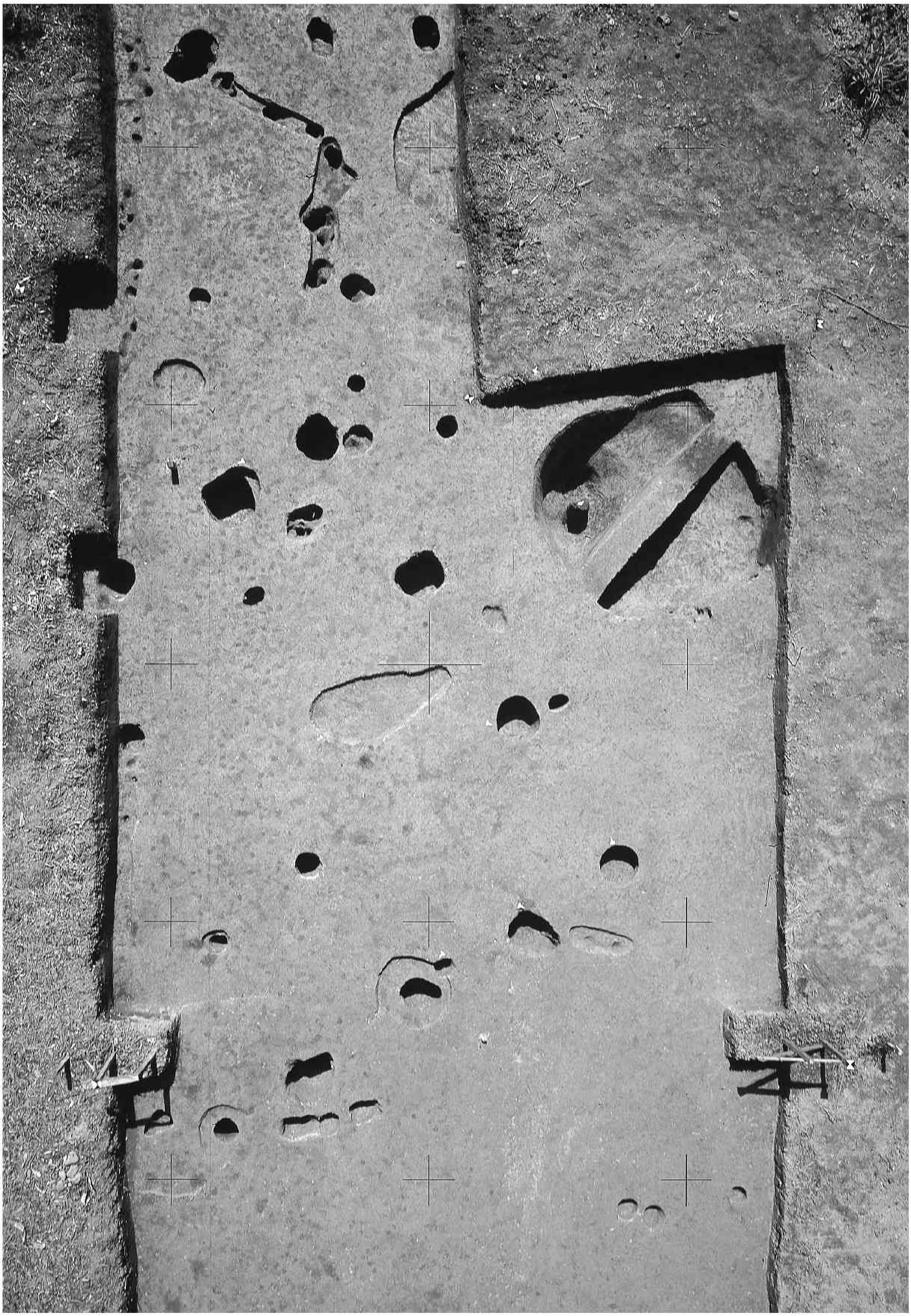
1区南半全景（南から）

1区北半全景（北から）

2区南半全景（南から）

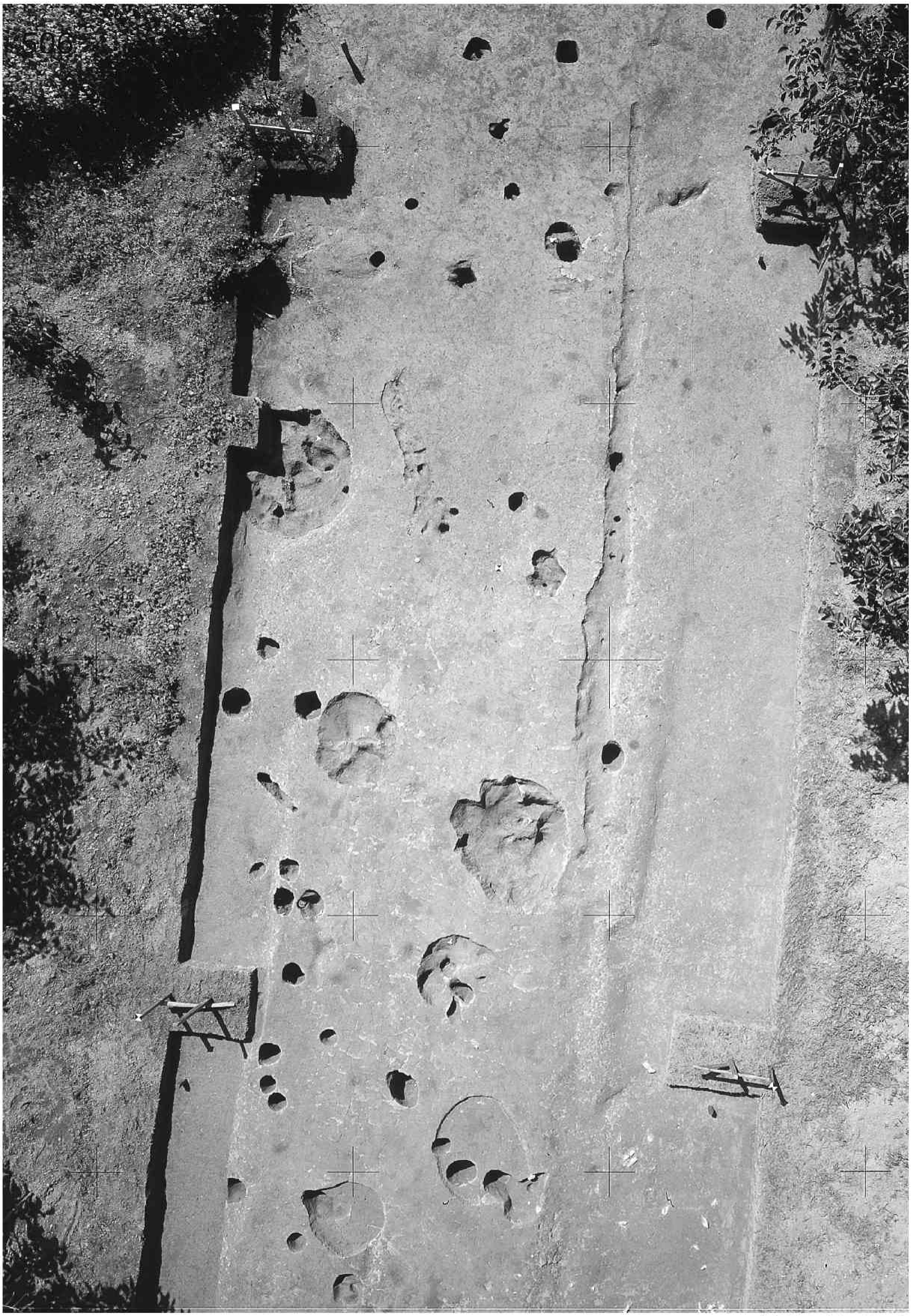
2区北半全景（北から）

2区27・28ー38～41区完掘状況（上が南）



2 区26・27ー35～37区完掘状況（上が南）

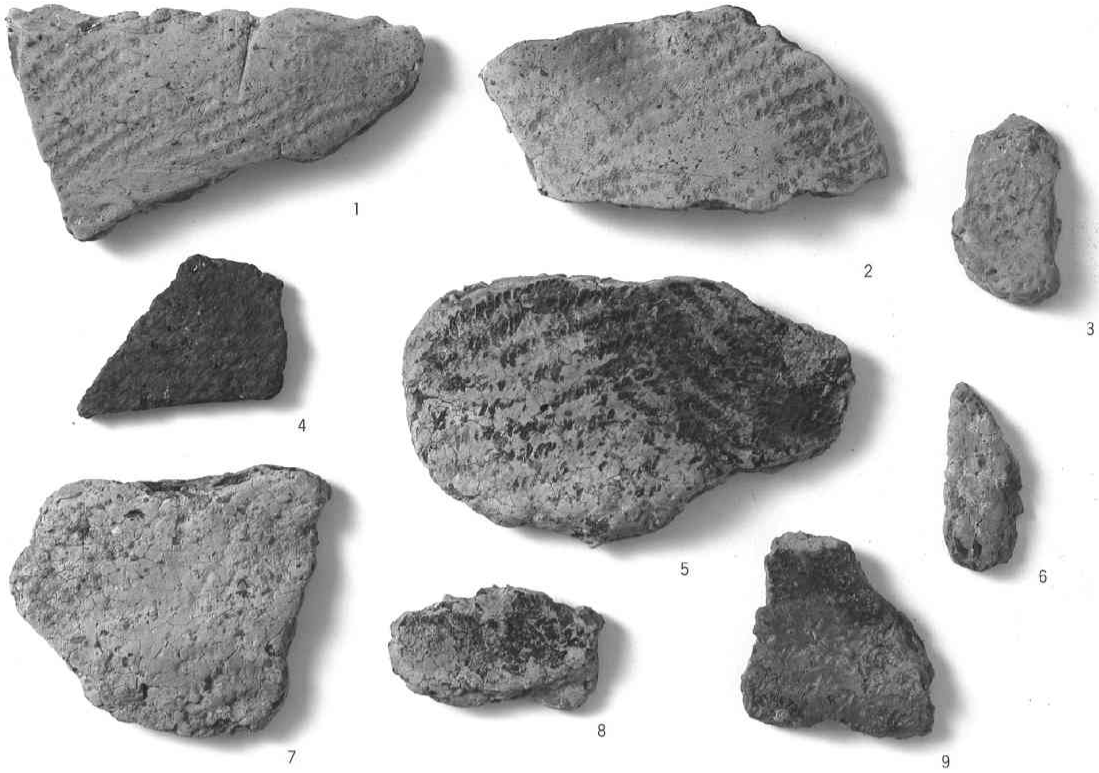
2 区26－32～34区完掘状況（上が南）

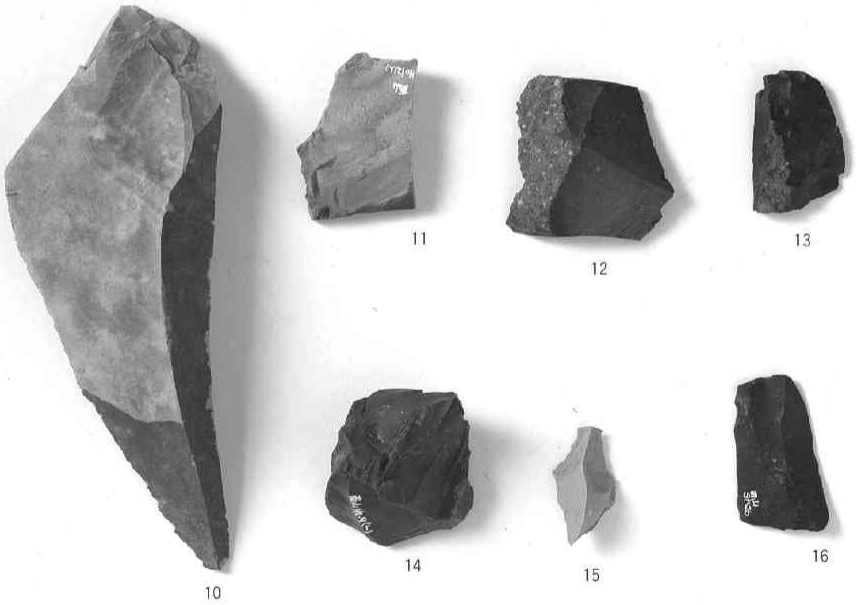


2 区17～20－22～24区完掘状況（上が南西）

2区北端拡張区完掘状況（南から）

2区北端拡張区完掘状況（北から）





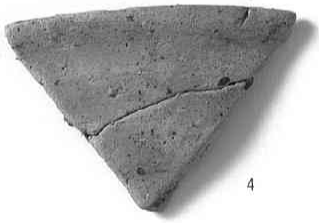
縄文土器・剥片

石核・石器

1

2

3



4

5

6

7

8

赤焼土器(1)

赤焼土器(2)

須恵器

報告書抄録

ふ り が な	にしやまいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	西山遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第137集
編 著 者 名	黒坂雅人　小林　啓
編 集 機 関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号　TEL 023-672-5301
発行年月日	2005年3月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西山遺跡（にしやまいせき）	山形県（やまがたけん） 藤島町（ふじしままち） 大字添川（おおあざそえがわ） 字西山（あざにしやま）	6423	1652	38度 44分 14秒	139度 57分 17秒	20030821 ～ 20030926	1,560	中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区

種　別	主 な 時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集 落 跡	平 安 時 代	掘立柱建物跡　1 柱穴列　1 土坑・ピット	赤焼土器 須恵器	平安時代の集落跡。掘立柱建物跡１棟と柱穴列などを検出。遺物では、ピット、柱穴などから赤焼土器が出土。 （総出土箱数：３箱）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集

西山遺跡発掘調査報告書

2005年３月28日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　023-672-5301
印刷　株式会社アサヒ印刷
〒990-2251　山形県山形市立谷川２丁目486番14号
電話　023-686-4331